

2024年度

群馬県立女子大学大学院（修士課程）

文 学 研 究 科
国際コミュニケーション研究科
学 生 募 集 要 項

一 般 選 抜
外国人留学生特別選抜
社会人特別選抜
シニア特別選抜
企業推薦（県内）特別選抜※国際のみ

文 学 研 究 科 の 案 内

日 本 文 学 専 攻
英 米 文 化 専 攻
芸 術 学 専 攻
複 合 文 化 専 攻

国際コミュニケーション研究科の案内

国際コミュニケーション専攻

目 次

□入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	1
□一般選抜	2
□外国人留学生特別選抜	6
□社会人特別選抜	10
□シニア特別選抜	14
□企業推薦（県内）特別選抜	18
□群馬県立女子大学大学院の目的	21
□群馬県立女子大学大学院文学研究科の案内	21
◎ 日本文学専攻の特色と研究指導・授業科目	22
◎ 英米文化専攻の特色と研究指導・授業科目	27
◎ 芸術学専攻の特色と研究指導・授業科目	31
◎ 複合文化専攻の特色と研究指導・授業科目	35
□群馬県立女子大学大学院国際コミュニケーション研究科の案内	40
◎ 国際コミュニケーション専攻の特色と研究指導・授業科目	40
TESOL Certificate Program（履修証明プログラム）の案内	41
□大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例の実施について	49
□長期履修学生制度の案内	49
□大学院修学休業制度の案内	49
□障害等により受験上の配慮を必要とする方の出願について	50
□試験場案内図	51
□出願書類等	

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学研究科

文学研究科は、伝統的な学問研究の基本的な枠組みを維持して専門分野の研究に必要な素養を身につけた人材の育成を図るとともに、高度の学業及び研究を積んだ研究者並びに高度の専門性に裏付けられ、様々な職域及び地域の発展に寄与し得る人材を育成することを目的としています。

そのため、本研究科は、人間と社会への深い関心と知的好奇心に富み、専門性の高い研究に取り組むために必要な基礎的知識と学力を有する人を求めています。

その上で、各専攻は次のような学生を求めています。

- ・日本文学専攻
 1. 現代の国際化社会の中で日本人が立脚している足元に強い関心を持ち、その意味をより深く探究したい人
 2. 日本文学、日本語学、漢文学、日本語教育学のいずれかの分野についての基礎的な知識を持ち、さらにそれを深めたい人
 3. 本専攻で培われた専門的能力をいかし、学校教育、社会人教育、外国人への日本語教育などの分野で社会貢献を目指す人
- ・英米文化専攻
 1. 英語を通して見えてくる世界に強い関心と問題意識を持つ人
 2. 英語の文献を読みこなす基本的な語学力と、英語学、英米文学、英米文化のいずれかの分野についての基礎的な知識を備え、さらにそれらを深めたい人
 3. 本専攻で養った専門的能力を用い、英語教育の現場や英語力をいかした分野での社会貢献を目指す人
- ・芸術学専攻
 1. 芸術全般に広く興味を持つ人
 2. 美学、日本美術史、西洋美術史、アートマネジメント、美術実技のいずれかの分野に強い関心を抱き、美学と美術史、アートマネジメントについてはその基礎知識を持ち、美術実技においては独自の発想や豊かな感性を有し、素描力と色彩表現力を備えた人
 3. 本専攻で追究した専門性をいかすことで、アートの現場の他、広く社会に貢献したいと考えている人
- ・複合文化専攻
 1. 広く文化一般に対して飽くなき好奇心を持つ人
 2. 特定の文化的事象に対し強い関心を抱き、その専門対象についての基礎的知識を有する人
 3. 専門的知識を深めることで、その成果を世界に向かって発信し、世界に貢献したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

上記のような学生を選抜するために、次の選抜方法を基本方針としています。

- ・専門科目では、専門分野の知識や技能、思考力、発想力、表現力を評価する。
- ・口述試験では、専門分野に対する関心度や問題意識、主体性、専門分野の知識や技能、思考力、発想力、表現力、社会貢献に対する意欲を評価する。
- ・出願書類では、専門分野の知識や技能、主体性、思考力、発想力、表現力を評価する。
また、多様な学生を評価するために、一般選抜、学内進学選抜、外国人留学生特別選抜、社会人特別選抜、シニア特別選抜を実施します。

国際コミュニケーション研究科

・国際コミュニケーション専攻

本研究科では、グローバル社会で活躍するために必要な専門知識と英語コミュニケーション能力を持つリーダーを養成することを目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

1. 言語としての英語に対する学問的アプローチや国際社会の諸問題に関する学際的研究に強い関心を持っている人
2. 国際社会における国家・社会・企業・団体・個人などの関係を理解し、リーダーとして行動する強い意欲を持っている人
3. グローバル社会における問題を自ら発見し、論理的思考により、その解決に自律的に取り組んで行ける人

入学者選抜の基本方針

上記のような学生を選抜するために、次の選抜方法を基本方針としています。

- ・面接試験では、出願者の英語コミュニケーション力、論理的思考力、研究への関心・意欲、主体的に問題を発見し、それを自律的に解決する資質、将来のビジョンを志望理由書の内容なども勘案して総合的に評価します。
- ・出願書類では、成績証明書などから、研究を行う上で必要とされる基礎的な知識・学力などを評価します。
また、多様な学生を評価するために、一般選抜、学内進学選抜、外国人留学生特別選抜、社会人特別選抜、シニア特別選抜、企業推薦（県内）特別選抜を実施します。

2024年度群馬県立女子大学大学院（修士課程） 一般選抜学生募集要項

2024年度学生募集は、2期（第Ⅰ期は9月、第Ⅱ期は1月）に分けて行います。

1 募集人員

研究科名	専攻名	募集人員 (第Ⅰ期、第Ⅱ期合計)
文学研究科	日本文学専攻	5名（男女）
	英米文化専攻	5名（男女）
	芸術学専攻	5名（男女）
	複合文化専攻	3名（男女）
国際コミュニケーション研究科	国際コミュニケーション専攻	3名（男女）

2 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- (1) 大学を卒業した者又は2024年3月までに卒業見込みの者
 - (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者又は2024年3月までに授与される見込みの者（大学改革支援・学位授与機構から学位を授与された者又は授与される見込みの者）
 - (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は2024年3月までに修了見込みの者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の16年の課程を修了した者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者
 - (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
 - (8) 専修学校の専門課程で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は2024年3月までに修了見込みの者
 - (9) 2024年3月までに、大学に3年以上在学し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
 - (10) 2024年3月までに、外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
 - (11) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2024年3月31日までに22歳に達する者
- (注) 出願資格(9)、(10)又は(11)により出願しようとする場合は、本学大学院において出願資格の認定を行います。下記の期日が資格審査申請締切日となっていますので、本学事務局教務係に早めに申し出てください。

【第Ⅰ期】 7月28日（金） 【第Ⅱ期】 12月 1日（金）

3 出願期間

【第Ⅰ期】 2023年 9月 1日（金）から 9月 7日（木） （必着）

【第Ⅱ期】 2024年 1月 5日（金）から 1月12日（金） （必着）

4 出願手続

- (1) 入学試験料 30,000円
所定の振込用紙にて振り込んでください。
- (2) 出願方法
出願は、次頁の(3)の出願書類等を整え、持参又は郵送することにより行ってください。
郵送で出願する場合は、書留速達郵便で送付してください。

(3) 出願書類等

書類等の名称	備 考
①入学願書	本学大学院所定の用紙
②受験票・写真票等	本学大学院所定の用紙 (写真は出願前3か月以内に撮影したもので、無帽上半身、正面向き。裏面に氏名を記入すること。) (入学試験料(30,000円)に係る振込用紙の一番右側の「払込受付証明書(大学提出用)」を、所定の欄に貼付すること。)
③成績証明書	出身大学が日本語又は英語により発行したもの ※追加で資料を求めることがあります。 【中華人民共和国の高等教育機関を卒業された場合】 中国高等教育学生信息网(CHSI: China Higher Education Student Information)又は中国学歴・学籍認証センター日本代理機構が発行する「成績認証報告書」の英語版を提出すること。
④卒業(見込)証明書等	出願資格にかかわるもの(出身大学等の卒業(見込)又は修了(見込)証明書) 注1: 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者については学位授与証明書、授与される見込みの者は学位授与申請受理証明書(ともに大学改革支援・学位授与機構で発行したもの)を提出すること。 注2: 出願資格(6)による出願者は、学位授与証明書や学位記など、授与された学位を証明する書類を提出すること。
⑤卒業論文等 (文学研究科のみ)	
日本文学専攻	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 日本文学(漢文学を含む)・日本語学・日本語教育学に関する卒業論文、卒業論文の中間報告書、論文、レポートのうちのいずれか一つの写し1部(なお、卒業論文以外は8,000字程度。それを超過しても可。)
英米文化専攻	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 英語学・英米文学・英米文化に関する卒業論文、卒業論文の中間報告書、卒業論文に代わる論文のうちのいずれか一つの写し1部(なお、卒業論文以外は、日本語の場合4,000字以上、英語の場合1,500語以上)
芸術学専攻	【第Ⅰ期】 美学あるいは美術史、アートマネジメントに関する小論文(4,000字程度)の写し1部、もしくは1年以内に制作した作品ないしその全体像がわかる写真 【第Ⅱ期】 美学あるいは美術史、アートマネジメントに関する卒業論文の写し又はそれに相当する論文(12,000字以上)の写し1部、もしくは卒業制作又はそれに相当する作品、ないしはその全体像がわかる写真
複合文化専攻	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 卒業論文、もしくは本専攻で研究しようと考えている学問領域に関する小論文(4,000字程度)の写し1部
⑥研究計画書 (文学研究科のみ)	文学研究科所定の用紙
⑦志望理由書(国際コミュニケーション研究科のみ)	国際コミュニケーション研究科所定の用紙
⑧受験票等送付用封筒	長形3号の封筒に、住所及び氏名を明記し、定形郵便物(25g以内)の速達料を含めた最低料金(344円分)の切手を貼付してください。
⑨TOEIC(IPを含む)又はTOEFL(TOEFL-PBT, TOEFL-iBT)のスコアシート(国際コミュニケーション研究科のみ)	出願1年以内に発行されたスコアシートの原本またはコピー(任意) (提出いただいたスコアシートは返却いたしません。)

(4) 出願書類等の提出先

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1
群馬県立女子大学 事務局 教務係

5 選抜方法

(1) 試験科目等

①文学研究科

入学者の選抜は、試験、論文及び研究計画書等を総合して判定します。

ア 試験科目

専攻名	専 門 科 目	口 述 試 験
日本文学	【第Ⅰ期】 日本文学、日本語学、漢文学、日本語教育学に関するものから選択	【第Ⅰ期】 論文及び研究計画書等について 【第Ⅱ期】 日本文学・日本語学・漢文学・日本語教育学に関すること、論文及び研究計画書等について
英米文化	【第Ⅰ期】 英語	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 論文及び研究計画書等に関する質疑応答
芸 術 学	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 ・美学（英語※を含む）、日本美術史（古文・漢文を含む）、西洋美術史（英語※を含む）、アートマネジメント（英語※又は古文・漢文を含む）、美術実技（鉛筆デッサン）のうち一つ選択 ※は辞書持ち込み可 ・小論文	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 論文、作品及び研究計画書等について
複合文化	【第Ⅰ期】 文化資源学、社会学、スポーツ文化論、論理学、メディア論に関するものから選択	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 論文及び研究計画書等について

イ 試験日時

専攻名	【第Ⅰ期】 2023年9月26日(火)	【第Ⅱ期】 2024年1月29日(月)
日本文学	専門科目 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)	口述試験 (13:00~)
英米文化	専門科目 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)	口述試験 (13:00~)
芸 術 学	専門科目 (10:00~12:00) 小論文 (13:00~14:00) 口述試験 (15:00~)	専門科目 (10:00~12:00) 小論文 (13:00~14:00) 口述試験 (15:00~)
複合文化	専門科目 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)	口述試験 (13:00~)

②国際コミュニケーション研究科

入学者の選抜は、面接試験及び志望理由書等を総合して判定します。

ア 試験科目

面接試験（志望理由書等について）

イ 試験日時

【第Ⅰ期】 2023年 9月26日(火) 10:00~

【第Ⅱ期】 2024年 1月29日(月) 10:00~

※面接試験の受付時間は別途通知します。

(2) 試験場

群馬県立女子大学（群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1）

(3) 受験上の注意事項

- 試験当日は、受験票を必ず持参してください。なお、受験票を持参しない場合には、受験を許可しないことがあります。
- 専門科目試験において試験開始から30分を超える遅刻をした者、口述試験及び面接試験の受付時間内に受付をしなかった者については、受験を認めません。なお、遅刻等の理由が試験当日の公共交通機関の事故又は災害による場合は、試験時間の繰り下げ等の特別措置を行うことがありますので、速やかに本学事務局までご連絡ください。

- ・試験当日の疾病・負傷によって受験できなかったことによる特別措置は行いません。また、試験時間中の発病等によって一時休養した者についても、試験時間の延長は認めません。

6 合格発表

【第Ⅰ期】2023年10月 5日(木) 午前10時 【第Ⅱ期】2024年 2月8日(木) 午前10時

(注) 本学に掲示するとともに、合格者には合格通知書を郵送します。なお、本学ウェブページ上にも受験番号を掲載(午前11時頃を予定)しますが、正式には本学内掲示もしくは合格通知書によりご確認ください。また、電話等による合否の照会には一切応じません。

7 入学手続

(1) 入学手続期間

【第Ⅰ期】2023年10月 6日(金)から10月16日(月)

【第Ⅱ期】2024年 2月 9日(金)から 2月16日(金)

- (2) 合格者には合格通知書とともに、入学手続に必要な書類を郵送します。
- (3) 所定の期日までに入学手続をとらない場合は、入学辞退者として扱います。

8 入学金・授業料等

(1) 入学金

2023年度の額は次のとおりですが、2024年度分については変更されることもありますので、本学事務局教務係まで照会してください。

種別	県内者及び本学の卒業生	県外者	備考
金額	141,000円	282,000円	入学手続時に納入

(注) 県内者とは、下記の時点で本人、配偶者又は一親等の親族(父母又は子)のいずれかが引き続き1年以上群馬県内に住所を有している者とします。

【第Ⅰ期】2023年10月 1日現在 【第Ⅱ期】2024年 2月 1日現在

※ 入学手続においては、入学金のほか、所定の保険料等の納入が必要となります。

(2) 授業料

2023年度の額は次のとおりですが、2024年度分については変更されることもありますので、本学事務局教務係まで照会してください。

授業料 535,800円(年額) 2期分納(前期分267,900円、後期分267,900円)

なお、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

※ 納入時期は、前期分は4月(入学初年度のみ6月予定)、後期分は10月の予定です。

9 その他

- (1) 出願書類に不備がある場合は、受理しません。
- (2) 一度受理した出願書類及び入学試験料は、返還しません。ただし、次のいずれかに該当する場合は入学試験料を返還しますので、本学教務係までお問い合わせください。
 - ・出願書類に不備等があり、受理されなかった場合
 - ・重複して振り込むなど、所定の金額より多く振り込んだ場合
 - ・入学試験料を振込後、本学に出願しなかった場合
- (3) 受験票は郵送しますが、下記の期日までに到達しない場合は、必ず本学事務局教務係まで連絡してください。

【第Ⅰ期】2023年 9月19日(火) 【第Ⅱ期】2024年 1月18日(木)
- (4) 過去の試験問題の閲覧・複写ができます。詳しくは本学事務局教務係にお問い合わせください。

10 学生募集に関する問い合わせ先

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1
群馬県立女子大学 事務局 教務係
電話 0270-65-8511

なお、さらに本学についての情報を得たい方は、ウェブページをご覧ください。
<https://www.gpwu.ac.jp/>

2024年度群馬県立女子大学大学院（修士課程） 外国人留学生特別選抜募集要項

1 募集人員

研究科名	専攻名	募集人員 (第Ⅰ期、第Ⅱ期合計)
文学研究科	日本文学専攻	若干名（男女）
	英米文化専攻	若干名（男女）
	芸術学専攻	若干名（男女）
	複合文化専攻	若干名（男女）
国際コミュニケーション研究科	国際コミュニケーション専攻	若干名（男女）

2 出願資格

次の(1)から(3)に該当する者とします。

- (1) 日本の国籍を有しない者
 - (2) 出入国管理及び難民認定法において、大学院入学資格に支障のない在留資格（留学、就学等）を有する者又は取得見込みの者で、次の①から⑪までのいずれかに該当する者
 - ① 大学を卒業した者又は2024年3月までに卒業見込みの者
 - ② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者又は2024年3月までに授与される見込みの者（大学改革支援・学位授与機構から学位を授与された者又は授与される見込みの者）
 - ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は2024年3月までに修了見込みの者
 - ④ 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の16年の課程を修了した者
 - ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣の指定するものの当該課程を修了した者
 - ⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - ⑦ 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
 - ⑧ 専修学校の専門課程で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は2024年3月までに修了見込みの者
 - ⑨ 2024年3月までに、大学に3年以上在学し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - ⑩ 2024年3月までに、外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - ⑪ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2024年3月31日までに22歳に達する者
- (注) 出願資格⑨、⑩又は⑪により出願しようとする場合は、本学大学院において出願資格の認定を行います。下記の期日が資格審査申請締切日となっていますので、本学事務局教務係に早めに申し出てください。

【第Ⅰ期】 7月28日(金) 【第Ⅱ期】 12月 1日(金)

- (3) 次のいずれかに該当する者

- ① 過去において独立行政法人国際交流基金・公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」においてN1又は1級に合格した者
- ② 独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」を受験し、直近の試験を含む2回分（1年間）のどちらかにおいて、読解・聴解・聴読解の合計の得点が280点以上の者
- ③ 日本の大学を卒業した者又は2024年3月までに卒業見込みの者

独立行政法人国際交流基金・公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」については、公式HPのFAQを確認の上、次に問い合わせること。

公式HP： <https://www.jlpt.jp/faq/index.html>

日本で受験した場合：日本語能力試験（日本国内）受付センター（日本国際教育支援協会）

電話：03-6686-2974（海外からの場合 +81-3-6686-2974）

海外で受験した場合：国際交流基金日本語試験センターまたは受験地の実施機関

メール： jlptinfo@jpf.go.jp

独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」については、次に問い合わせること。

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸2-6-26 HI 横浜ビル7階

独立行政法人日本学生支援機構 日本留学試験受付センター

電話：0570-55-0585（一部携帯電話、IP電話及び海外からは045-620-7243） FAX：045-620-7962

3 出願期間

【第Ⅰ期】2023年 9月 1日(金)から 9月 7日(木) (必着)

【第Ⅱ期】2024年 1月 5日(金)から 1月12日(金) (必着)

4 出願手続

(1) 入学試験料 30,000円

所定の振込用紙にて振り込んでください。

(2) 出願方法

出願は、以下の(3)の出願書類等を整え、持参又は郵送することにより行ってください。

郵送で出願する場合は、書留速達郵便で送付してください。

(3) 出願書類等

書類等の名称	備 考
①入学願書	本学大学院所定の用紙
②受験票・写真票等	本学大学院所定の用紙 (写真は出願前3か月以内に撮影したもので、無帽上半身、正面向き。裏面に氏名を記入すること。) (入学試験料(30,000円)に係る振込用紙の一番右側の「払込受付証明書(大学提出用)」を、所定の欄に貼付すること。)
③成績証明書	出身大学が日本語又は英語により発行したもの ※追加で資料を求めることがあります。 【中華人民共和国の高等教育機関を卒業された場合】 中国高等教育学生信息网(CHSI: China Higher Education Student Information)又は中国学歴・学籍認証センター日本代理機構が発行する「成績認証報告書」の英語版を提出すること。
④卒業(見込)証明書等	出願資格にかかわるもの(出身大学等の卒業(見込)又は修了(見込)証明書) 注1: 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者については学位授与証明書、授与される見込みの者は学位授与申請受理証明書(ともに大学改革支援・学位授与機構が発行したもの)を提出すること。 注2: 出願資格(2)⑥による出願者は、学位授与証明書や学位記など、授与された学位を証明する書類を提出すること。
⑤卒業論文等 (文学研究科のみ)	
日本文学専攻	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 日本文学(漢文学を含む)・日本語学・日本語教育学に関する卒業論文、卒業論文の中間報告書、論文、レポートのうちのいずれか一つの写し1部(なお、卒業論文以外は8,000字程度。それを超過しても可。)
英米文化専攻	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 英語学・英米文学・英米文化に関する卒業論文、卒業論文の中間報告書、卒業論文に代わる論文のうちのいずれか一つの写し1部(なお、卒業論文以外は、日本語の場合4,000字以上、英語の場合1,500語以上)
芸術学専攻	【第Ⅰ期】 美学あるいは美術史、アートマネジメントに関する小論文(4,000字程度)の写し1部、もしくは1年以内に制作した作品ないしその全体像がわかる写真 【第Ⅱ期】 美学あるいは美術史、アートマネジメントに関する卒業論文の写し又はそれに相当する論文(12,000字以上)の写し1部、もしくは卒業制作又はそれに相当する作品、ないしはその全体像がわかる写真
複合文化専攻	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 卒業論文、もしくは本専攻で研究しようと考えている学問領域に関する小論文(4,000字程度)の写し1部
⑥研究計画書 (文学研究科のみ)	文学研究科所定の用紙
⑦志望理由書(国際コミュニケーション研究科のみ)	国際コミュニケーション研究科所定の用紙
⑧受験票等送付用封筒	長形3号の封筒に、住所及び氏名を明記し、定形郵便物(25g以内)の速達料を含めた最低料金(344円分)の切手を貼付してください。
⑨パスポートの写し	
⑩日本語能力試験・日本留学試験成績等(出願資格(3)①又は②に該当する者のみ)	次の①②のうち、どちらかを提出すること。 ①「日本語能力試験」を日本で受験した場合:「日本語能力認定書兼可否結果通知書」(写)及び「認定結果及び成績に関する証明書」 「日本語能力試験」を海外で受験した場合:「日本語能力認定書」(写)及び「認定結果及び成績に関する証明書」 ②「日本留学試験」の「日本語」の成績通知書(写)及び受験票(写)

①履歴書 (文学研究科のみ)	文学研究科所定の用紙
-------------------	------------

(注) 卒業論文又はそれに類するものを外国語で作成したものは、日本語の要約を併せて提出すること。

- (4) 出願書類等の提出先
〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1
群馬県立女子大学 事務局 教務係

5 選抜方法

(1) 試験科目等

①文学研究科

入学者の選抜は、試験、論文及び研究計画書等を総合して判定します。

ア 試験科目

専攻名	専 門 科 目	口 述 試 験
日本文学	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 日本文学あるいは日本語に関する小論文	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 日本文学・日本語学・漢文学・日本語教育学に関すること、論文及び研究計画書等について
英米文化	【第Ⅰ期】 英語	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 論文及び研究計画書等に関する質疑応答
芸術学	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 ・美学(英語※を含む)、日本美術史(古文・漢文を含む)、西洋美術史(英語※を含む)、アートマネジメント(英語※又は古文・漢文を含む)、美術実技(鉛筆デッサン)のうち一つ選択 ※は辞書持ち込み可 ・小論文	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 論文、作品及び研究計画書等について
複合文化	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 専攻したい分野に関する小論文	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 論文及び研究計画書等について

イ 試験日時

専攻名	【第Ⅰ期】2023年9月26日(火)	【第Ⅱ期】2024年1月29日(月)
日本文学	小論文 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)	小論文 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)
英米文化	専門科目 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)	口述試験 (13:00~)
芸術学	専門科目 (10:00~12:00) 小論文 (13:00~14:00) 口述試験 (15:00~)	専門科目 (10:00~12:00) 小論文 (13:00~14:00) 口述試験 (15:00~)
複合文化	小論文 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)	小論文 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)

②国際コミュニケーション研究科

入学者の選抜は、面接試験及び志望理由書等を総合して判定します。

ア 試験科目

面接試験(志望理由書等について)

イ 試験日時

【第Ⅰ期】 2023年 9月26日(火) 10:00~

【第Ⅱ期】 2024年 1月29日(月) 10:00~

※ 面接試験の受付時間は別途通知します。

(2) 試験場

群馬県立女子大学(群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1)

(3) 受験上の注意事項

- 試験当日は、受験票を必ず持参してください。なお、受験票を持参しない場合には、受験を許可しないことがあります。
- 専門科目試験において試験開始から30分を超える遅刻をした者、口述試験及び面接試験の受付時間内に受付をしなかった者については、受験を認めません。なお、遅刻等の理由が試験当日の公共交通機関の事故又は災害による場合は、試験時間の繰り下げ等の特別措置を行うことがありますので、速やかに本学事務局までご連絡ください。

- ・試験当日の疾病・負傷によって受験できなかったことによる特別措置は行いません。また、試験時間中の発病等によって一時休養した者についても、試験時間の延長は認めません。

6 合格発表

【第Ⅰ期】2023年10月 5日(木) 午前10時 【第Ⅱ期】2024年 2月8日(木) 午前10時

(注) 本学に掲示するとともに、合格者には合格通知書を郵送します。なお、本学ウェブページ上にも受験番号を掲載(午前11時頃を予定)しますが、正式には本学内掲示もしくは合格通知書によりご確認ください。また、電話等による合否の照会には一切応じません。

7 入学手続

(1) 入学手続期間

【第Ⅰ期】2023年10月 6日(金)から10月16日(月)

【第Ⅱ期】2024年 2月 9日(金)から 2月16日(金)

- (2) 合格者には合格通知書とともに、入学手続に必要な書類を郵送します。
- (3) 所定の期日までに入学手続をとらない場合は、入学辞退者として扱います。

8 入学金・授業料等

(1) 入学金

2023年度の額は次のとおりですが、2024年度分については変更されることもありますので、本学事務局教務係まで照会してください。

種別	県内者及び本学の卒業生	県外者	備考
金額	141,000円	282,000円	入学手続時に納入

(注) 県内者とは、下記の時点で本人、配偶者又は一親等の親族(父母又は子)のいずれかが引き続き1年以上群馬県内に住所を有している者とします。

【第Ⅰ期】2023年10月 1日現在 【第Ⅱ期】2024年 2月 1日現在

※ 入学手続においては、入学金のほか、所定の保険料等の納入が必要となります。

(2) 授業料

2023年度の額は次のとおりですが、2024年度分については変更されることもありますので、本学事務局教務係まで照会してください。

授業料 535,800円(年額) 2期分納(前期分267,900円、後期分267,900円)

なお、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

※ 納入時期は、前期分は4月(入学初年度のみ6月予定)、後期分は10月の予定です。

9 その他

- (1) 出願書類に不備がある場合は、受理しません。
- (2) 一度受理した出願書類及び入学試験料は、返還しません。ただし、次のいずれかに該当する場合は入学試験料を返還しますので、本学教務係までお問い合わせください。
 - ・出願書類に不備等があり、受理されなかった場合
 - ・重複して振り込むなど、所定の金額より多く振り込んだ場合
 - ・入学試験料を振込後、本学に出願しなかった場合
- (3) 受験票は郵送しますが、下記の期日までに到達しない場合は、必ず本学事務局教務係まで連絡してください。

【第Ⅰ期】2023年 9月19日(火) 【第Ⅱ期】2024年 1月18日(木)
- (4) 過去の試験問題の閲覧・複写ができます。詳しくは本学事務局教務係にお問い合わせください。

10 学生募集に関する問い合わせ先

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1
群馬県立女子大学 事務局 教務係
電話 0270-65-8511

なお、さらに本学についての情報を得たい方は、ウェブページをご覧ください。

<https://www.gpwu.ac.jp/>

2024年度群馬県立女子大学大学院（修士課程） 社会人特別選抜募集要項

1 募集人員

研究科名	専攻名	募集人員 (第Ⅰ期、第Ⅱ期合計)
文学研究科	日本文学専攻	若干名（男女）
	英米文化専攻	若干名（男女）
	芸術学専攻	若干名（男女）
	複合文化専攻	若干名（男女）
国際コミュニケーション研究科	国際コミュニケーション専攻	若干名（男女）

2 趣旨

両研究科は、生涯学習や社会人の再学習に対する社会的要請に応え、豊かな社会的経験と教養を活かしながら、専門的な研究をさらに深め、新しい学問的成果に触れる機会を求める意欲的な社会人に対して、広く門戸を開いています。両研究科の領域に関心のある社会的経験を有する方々の積極的な応募を期待しています。修了に必要な単位については、昼間の授業によって修得することを原則としますが、特に教育上必要な場合には、夜間その他特定の時間又は時期に授業及び研究指導を行うことがあります。

3 出願資格

次の各号のいずれかに該当し、かつ、入学時までに2年以上の社会人経験を有している者としてします。

- (1) 大学を卒業した者又は2024年3月までに卒業見込みの者
 - (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者又は2024年3月までに授与される見込みの者（大学改革支援・学位授与機構から学位を授与された者又は授与される見込みの者）
 - (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は2024年3月までに修了見込みの者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該外国の16年の課程を修了した者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者
 - (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
 - (8) 専修学校の専門課程で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は2024年3月までに修了見込みの者
 - (9) 2024年3月までに、大学に3年以上在学し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - (10) 2024年3月までに、外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - (11) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者（短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校等の卒業生や外国大学日本分校その他の教育施設等の修了者など）
- (注) 出願資格(9)、(10)又は(11)により出願しようとする場合は、本学大学院において出願資格の認定を行います。下記の期日が資格審査申請締切日となっていますので、本学事務局教務係に早めに申し出てください。

【第Ⅰ期】 7月28日（金）

【第Ⅱ期】 12月 1日（金）

4 出願期間

【第Ⅰ期】 2023年 9月 1日（金）から 9月 7日（木）（必着）

【第Ⅱ期】 2024年 1月 5日（金）から 1月12日（金）（必着）

5 出願手続

- (1) 入学試験料 30,000円
所定の振込用紙にて振り込んでください。

- (2) 出願方法
出願は、以下の(3)の出願書類等を整え、持参又は郵送することにより行ってください。

郵送で出願する場合は、書留速達郵便で送付してください。

(3) 出願書類等

書類等の名称	備 考
①入学願書	本学大学院所定の用紙
②受験票・写真票等	本学大学院所定の用紙 (出願前3か月以内に撮影したもので、無帽上半身、正面向き。裏面に氏名を記入すること。) (入学試験料(30,000円)に係る振込用紙の一番右側の「払込受付証明書(大学提出用)」を、所定の欄に貼付すること。)
③成績証明書	出身大学が日本語又は英語により発行したもの ※追加で資料を求められることがあります。 【中華人民共和国の高等教育機関を卒業された場合】 中国高等教育学生信息网(CHSI: China Higher Education Student Information)又は中国学歴・学籍認証センター日本代理機構が発行する「成績認証報告書」の英語版を提出すること。
④卒業(見込)証明書等	出願資格にかかわるもの (出身大学の卒業又は修了証明書) 注1: 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者については学位授与証明書、授与される見込みの者は学位授与申請受理証明書(ともに大学改革支援・学位授与機構で発行したもの)を提出すること。 注2: 出願資格(6)による出願者は、学位授与証明書や学位記など、授与された学位を証明する書類を提出すること。
⑤卒業論文等 (文学研究科のみ)	
日本文学専攻	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 日本文学(漢文学を含む)・日本語学・日本語教育学に関する卒業論文の写し1部又は小論文(4,000字程度)の写し1部
英米文化専攻	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 英語学・英米文学・英米文化に関する卒業論文、又はそれに代わる論文(日本語の場合4,000字以上、英語の場合1,500語以上)の写し1部
芸術学専攻	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 美学あるいは美術史、アートマネジメントに関する卒業論文の写し又はそれに代わる小論文(4,000字程度)の写し1部、もしくは卒業制作又はそれに相当する作品、ないしはその全体像がわかる写真
複合文化専攻	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 卒業論文等又は専攻したい分野に関する小論文(4,000字程度)の写し1部
⑥研究計画書 (文学研究科のみ)	文学研究科所定の用紙
⑦志望理由書(国際コミュニケーション研究科のみ)	国際コミュニケーション研究科所定の用紙(職歴又はその他の社会的経験を踏まえて記述すること。)
⑧受験票等送付用封筒	長形3号の封筒に、住所及び氏名を明記し、定形郵便物(25g以内)の速達料を含めた最低料金(344円分)の切手を貼付してください。
⑨TOEIC(IPを含む)又はTOEFL(TOEFL-PBT, TOEFL-iBT)のスコアシート(国際コミュニケーション研究科のみ)	出願1年以内に発行されたスコアシートの原本またはコピー(任意) (提出いただいたスコアシートは返却いたしません。)
⑩履歴証明書、在職証明書等(日本文学専攻・英米文化専攻の志願者で専門科目試験免除に該当する者のみ)	勤務先の学校が発行したもので、担当教科が明記されているもの。

- (4) 出願書類等の提出先
〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1
群馬県立女子大学 事務局 教務係

6 選抜方法

(1) 試験科目等

①文学研究科

入学者の選抜は、試験、論文及び研究計画書等を総合して判定します。

ア 試験科目

専攻名	専 門 科 目	口 述 試 験
日本文学	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 日本文学あるいは日本語に関する小論文	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 日本文学・日本語学・漢文学・日本語教育学に関すること、論文及び研究計画書等について
英米文化	【第Ⅰ期】 英語	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 論文及び研究計画書等に関する質疑応答
芸術学	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 ・美学（英語※を含む）、日本美術史（古文・漢文を含む）、西洋美術史（英語※を含む）、アートマネジメント（英語※又は古文・漢文を含む）、美術実技（鉛筆デッサン）のうち一つ選択 ※は辞書持ち込み可 ・小論文	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 論文、作品及び研究計画書等について
複合文化	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 専攻したい分野に関する小論文	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 論文及び研究計画書等について

※ 日本文学専攻の志願者のうち、学校教育法で定められた学校で国語を教えた経験を有する者は、専門科目試験を免除する。

※ 英米文化専攻の志願者のうち、学校教育法で定められた学校で英語を教えた経験を有する者は、専門科目試験を免除する。

イ 試験日時

専攻名	【第Ⅰ期】2023年9月26日(火)	【第Ⅱ期】2024年1月29日(月)
日本文学	小論文 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)	小論文 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)
英米文化	専門科目 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)	口述試験 (13:00~)
芸術学	専門科目 (10:00~12:00) 小論文 (13:00~14:00) 口述試験 (15:00~)	専門科目 (10:00~12:00) 小論文 (13:00~14:00) 口述試験 (15:00~)
複合文化	小論文 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)	小論文 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)

②国際コミュニケーション研究科

入学者の選抜は、面接試験及び志望理由書等を総合して判定します。

ア 試験科目

面接試験（志望理由書等について）

イ 試験日時

【第Ⅰ期】 2023年 9月26日(火) 10:00~

【第Ⅱ期】 2024年 1月29日(月) 10:00~

※面接試験の受付時間は別途通知します。

(2) 試験場

群馬県立女子大学（群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1）

- (3) 受験上の注意事項
- ・試験当日は、受験票を必ず持参してください。なお、受験票を持参しない場合には、受験を許可しないことがあります。
 - ・専門科目試験において試験開始から30分を超える遅刻をした者、口述試験及び面接試験の受付時間内に受付をしなかった者については、受験を認めません。なお、遅刻等の理由が試験当日の公共交通機関の事故又は災害による場合は、試験時間の繰り下げ等の特別措置を行うことがありますので、速やかに本学事務局までご連絡ください。
 - ・試験当日の疾病・負傷によって受験できなかったことによる特別措置は行いません。また、試験時間中の発病等によって一時休養した者についても、試験時間の延長は認めません。

7 合格発表

【第Ⅰ期】2023年10月 5日(木) 午前10時 【第Ⅱ期】2024年 2月 8日(木) 午前10時

(注) 本学に掲示するとともに、合格者には合格通知書を郵送します。なお、本学ウェブページ上にも受験番号を掲載(午前11時頃を予定)しますが、正式には本学内掲示もしくは合格通知書によりご確認ください。また、電話等による合否の照会には一切応じません。

8 入学手続

(1) 入学手続期間

【第Ⅰ期】2023年10月6日(金)から10月16日(月)

【第Ⅱ期】2024年 2月9日(金)から 2月16日(金)

- (2) 合格者には合格通知書とともに、入学手続に必要な書類を郵送します。
- (3) 所定の期日までに入学手続をとらない場合は、入学辞退者として扱います。

9 入学金・授業料等

(1) 入学金

2023年度の額は次のとおりですが、2024年度分については変更されることもありますので、本学事務局教務係まで照会してください。

種別	県内者及び本学の卒業生	県外者	備考
金額	141,000円	282,000円	入学手続時に納入

(注) 県内者とは、下記の時点で本人、配偶者又は一親等の親族(父母又は子)のいずれかが引き続き1年以上群馬県内に住所を有している者とします。

【第Ⅰ期】2023年10月 1日現在 【第Ⅱ期】2024年 2月 1日現在

※ 入学手続においては、入学金のほか、所定の保険料等の納入が必要となります。

(2) 授業料

2023年度の額は次のとおりですが、2024年度分については変更されることもありますので、本学事務局教務係まで照会してください。

授業料 535,800円(年額) 2期分納(前期分267,900円、後期分267,900円)

なお、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

※ 納入時期は、前期分は4月(入学初年度のみ6月予定)、後期分は10月の予定です。

10 その他

- (1) 出願書類に不備がある場合は、受理しません。
- (2) 一度受理した出願書類及び入学試験料は、返還しません。ただし、次のいずれかに該当する場合は入学試験料を返還しますので、本学教務係までお問い合わせください。
- ・出願書類に不備等があり、受理されなかった場合
 - ・重複して振り込むなど、所定の金額より多く振り込んだ場合
 - ・入学試験料を振込後、本学に出願しなかった場合
- (3) 受験票は郵送しますが、下記の期日までに到達しない場合は、必ず本学事務局教務係まで連絡してください。
- 【第Ⅰ期】2023年 9月19日(火) 【第Ⅱ期】2024年 1月18日(木)
- (4) 過去の試験問題の閲覧・複写ができます。詳しくは本学事務局教務係にお問い合わせください。

11 学生募集に関する問い合わせ先

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1

群馬県立女子大学 事務局 教務係

電話 0270-65-8511

なお、さらに本学についての情報を得たい方は、ウェブページをご覧ください。

<https://www.gpwu.ac.jp/>

2024年度群馬県立女子大学大学院（修士課程） シニア特別選抜学生募集要項

1 募集人員

研究科名	専攻名	募集人員 (第Ⅰ期、第Ⅱ期合計)
文学研究科	日本文学専攻	若干名（男女）
	英米文化専攻	若干名（男女）
	芸術学専攻	若干名（男女）
	複合文化専攻	若干名（男女）
国際コミュニケーション研究科	国際コミュニケーション専攻	若干名（男女）

2 趣旨

両研究科は、生涯学習や社会人の再学習に対する社会的要請に応えるため、社会人特別選抜とは別に、55歳以上の熟年世代に対して特別に門戸を開いています。熟年世代の方々が、豊かな社会的経験を活かしながら、専門的な研究に取り組むことができるように弾力的な修学プログラムを用意しています。両研究科の領域に関心のある55歳以上の方々の積極的な応募を期待しています。

3 出願資格

2024年4月1日現在、満55歳以上で、次の各号のいずれかに該当する者とします。

- (1) 大学を卒業した者又は2024年3月までに卒業見込みの者
 - (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者又は2024年3月までに授与される見込みの者（大学改革支援・学位授与機構から学位を授与された者又は授与される見込みの者）
 - (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該外国の16年の課程を修了した者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者
 - (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
 - (8) 専修学校の専門課程で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は2024年3月までに修了見込みの者
 - (9) 2024年3月までに、大学に3年以上在学し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - (10) 2024年3月までに、外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - (11) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者（短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校等の卒業生や外国大学日本分校その他の教育施設等の修了者など）
- (注) 出願資格(9)、(10)又は(11)により出願しようとする場合は、本学大学院において出願資格の認定を行います。下記の期日が資格審査申請締切日となっていますので、本学事務局教務係に早めに申し出てください。

【第Ⅰ期】 7月28日（金） 【第Ⅱ期】 12月 1日（金）

4 出願期間

【第Ⅰ期】 2023年 9月 1日（金）から 9月 7日（木）（必着）

【第Ⅱ期】 2024年 1月 5日（金）から 1月12日（金）（必着）

5 出願手続

- (1) 入学試験料 30,000円
所定の振込用紙にて振り込んでください。

(2) 出願方法

出願は、以下の(3)の出願書類等を整え、持参又は郵送することにより行ってください。
郵送で出願する場合は、書留速達郵便で送付してください。

(3) 出願書類等

書類等の名称	備 考
①入学願書	本学大学院所定の用紙
②受験票・写真票等	本学大学院所定の用紙 (写真は出願前3か月以内に撮影したもので、無帽上半身、正面向き。 裏面に氏名を記入すること。) (入学試験料(30,000円)に係る振込用紙の一番右側の「払込受付 証明書(大学提出用)」を、所定の欄に貼付すること。)
③住民票の写し (マイナンバー記載なし)	市区町村役場で発行したもの
④卒業(見込)証明書等	出願資格にかかわるもの (出身大学等の卒業(見込)又は修了(見込)証明書) 注1: 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者につ いては学位授与証明書、授与される見込みの者は学位授与申 請受理証明書(ともに大学改革支援・学位授与機構で発行した もの)を提出すること。 注2: 出願資格(6)による出願者は、学位授与証明書や学位記など、 授与された学位を証明する書類を提出すること。
⑤志望理由書	文学研究科は、職歴又はその他の社会的経験を踏まえて志望理由を 2,000字程度で記述したもの(様式は問わない) 国際コミュニケーション研究科は、当該研究科所定の用紙(職歴又は その他の社会的経験を踏まえて記述すること。)
⑥研究計画書 (文学研究科のみ)	文学研究科所定の用紙
⑦受験票等送付用封筒	長形3号の封筒に、住所及び氏名を明記し、定形郵便物(25g以内)の速 達料を含めた最低料金(344円分)の切手を貼付してください。
⑧TOEIC(IPを含む)又は TOEFL(TOEFL-PBT, TOEFL -iBT)のスコアシート(国 際コミュニケーション研究科のみ)	出願1年以内に発行されたスコアシートの原本またはコピー(任意) (提出いただいたスコアシートは返却いたしません。)
⑨履歴証明書、在職証明 書等(日本文学専攻の志 願者で専門科目試験免除 に該当する者のみ)	勤務先の学校が発行したもので、担当教科が明記されているもの。

(4) 出願書類等の提出先

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1
群馬県立女子大学 事務局 教務係

6 選抜方法

(1) 試験科目等

①文学研究科

入学者の選抜は、試験及び研究計画書等を総合して判定します。

ア 試験科目

専攻名	専 門 科 目	口 述 試 験
日本文学	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 日本文学あるいは日本語に関する小論文	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 日本文学・日本語学・漢文学・日本語教育学に関すること及び研究計画書等について
英米文化	—————	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 志望理由書、研究計画書等及び英語学・英米文学・英米文化に関する質疑応答
芸 術 学	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 芸術に関する小論文	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 志望理由書及び研究計画書等について
複合文化	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 専攻したい分野に関する小論文	【第Ⅰ期】【第Ⅱ期】共通 志望理由書及び研究計画書等について

※ 日本文学専攻の志願者のうち、学校教育法で定められた学校で国語を教えた経験を有する者は、専門科目試験を免除する。

イ 試験日時

専攻名	【第Ⅰ期】2023年9月26日(火)	【第Ⅱ期】2024年1月29日(月)
日本文学	小論文 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)	小論文 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)
英米文化	口述試験 (13:00~)	口述試験 (13:00~)
芸 術 学	小論文 (10:00~12:00) 口述試験 (15:00~ 予定※) ※変更になる場合があります。	小論文 (10:00~12:00) 口述試験 (15:00~ 予定※) ※変更になる場合があります。
複合文化	小論文 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)	小論文 (10:00~12:00) 口述試験 (13:00~)

②国際コミュニケーション研究科

入学者の選抜は、面接試験及び志望理由書等を総合して判定します。

ア 試験科目

面接試験 (志望理由書等について)

イ 試験日時

【第Ⅰ期】 2023年 9月26日(火) 10:00~

【第Ⅱ期】 2024年 1月29日(月) 10:00~

※ 面接試験の受付時間は別途通知します。

(2) 試験場

群馬県立女子大学 (群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1)

(3) 受験上の注意事項

- 試験当日は、受験票を必ず持参してください。なお、受験票を持参しない場合には、受験を許可しないことがあります。
- 専門科目試験において試験開始から30分を超える遅刻をした者、口述試験及び面接試験の受付時間内に受付をしなかった者については、受験を認めません。なお、遅刻等の理由が試験当日の公共交通機関の事故又は災害による場合は、試験時間の繰り下げ等の特別措置を行うことがありますので、速やかに本学事務局までご連絡ください。
- 試験当日の疾病・負傷によって受験できなかったことによる特別措置は行いません。また、試験時間中の発病等によって一時休養した者についても、試験時間の延長は認めません。

7 合格発表

【第Ⅰ期】2023年10月 5日(木) 午前10時 【第Ⅱ期】2024年 2月8日(木) 午前10時

(注) 本学に掲示するとともに、合格者には合格通知書を郵送します。なお、本学ウェブページ上にも受験番号を掲載(午前11時頃を予定)しますが、正式には本学内掲示もしくは合格通知書によりご確認ください。また、電話等による可否の照会には一切応じません。

8 入学手続

(1) 入学手続期間

【第Ⅰ期】2023年10月6日(金)から10月16日(月)

【第Ⅱ期】2024年 2月9日(金)から 2月16日(金)

(2) 合格者には合格通知書とともに、入学手続に必要な書類を郵送します。

(3) 所定の期日までに入学手続をとらない場合は、入学辞退者として扱います。

9 入学料・授業料等

(1) 入学料

2023年度の額は次のとおりですが、2024年度分については変更されることもありますので、本学事務局教務係まで照会してください。

種別	県内者及び本学の卒業生	県外者	備 考
金額	141,000円	282,000円	入学手続時に納入

(注) 県内者とは、下記の時点で本人、配偶者又は一親等の親族(父母又は子)のいずれかが引き続き1年以上群馬県内に住所を有している者としてします。

【第Ⅰ期】2023年10月 1日現在 【第Ⅱ期】2024年 2月 1日現在

※ 入学手続においては、入学料のほか、所定の保険料等の納入が必要となります。

(2) 授業料

2023年度の額は次のとおりですが、2024年度分については変更されることもありますので、本学事務局教務係まで照会してください。

授業料 535,800円(年額) 2期分納(前期分267,900円、後期分267,900円)

なお、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

※ 納入時期は、前期分は4月(入学初年度のみ6月予定)、後期分は10月の予定です。

10 その他

(1) 出願書類に不備がある場合は、受理しません。

(2) 一度受理した出願書類及び入学試験料は、返還しません。ただし、次のいずれかに該当する場合は入学試験料を返還しますので、本学教務係までお問い合わせください。

- ・出願書類に不備等があり、受理されなかった場合
- ・重複して振り込むなど、所定の金額より多く振り込んだ場合
- ・入学試験料を振込後、本学に出願しなかった場合

(3) 受験票は郵送しますが、下記の期日までに到達しない場合は、必ず本学事務局教務係まで連絡してください。

【第Ⅰ期】2023年 9月19日(火) 【第Ⅱ期】2024年 1月18日(木)

(4) 過去の試験問題の閲覧・複写ができます。詳しくは本学事務局教務係にお問い合わせください。

11 学生募集に関する問い合わせ先

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1
群馬県立女子大学 事務局 教務係
電話 0270-65-8511

なお、さらに本学についての情報を得たい方は、ウェブページをご覧ください。

<https://www.gpwu.ac.jp/>

2024年度群馬県立女子大学大学院国際コミュニケーション研究科（修士課程） 企業推薦（県内）特別選抜募集要項

1 募集人員

研究科名	専攻名	募集人員 (第Ⅰ期、第Ⅱ期合計)
国際コミュニケーション研究科	国際コミュニケーション専攻	若干名（男女）

2 趣旨

昨今、世界がグローバル化するとともに金融や経営環境も大きく変動する時代を迎えています。国際コミュニケーション研究科では、企業や国際ビジネスの最前線で活躍する企業人に対し、再学習の機会を提供します。また、ビジネスで用いるのに十分なコミュニケーション能力及び異文化理解能力の向上に加え、国際社会を見る眼を養成することなどを意図しています。

3 出願資格

次の各号のいずれかに該当し、かつ、入学時までに県内企業において2年以上の職業経験を有し、勤務先所属長から推薦を得た者。

- (1) 大学を卒業した者又は2024年3月までに卒業見込みの者
 - (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者又は2024年3月までに授与される見込みの者（大学改革支援・学位授与機構から学位を授与された者又は授与される見込みの者）
 - (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該外国の16年の課程を修了した者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者
 - (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
 - (8) 専修学校の専門課程で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は2024年3月までに修了見込みの者
 - (9) 2024年3月までに、大学に3年以上在学し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - (10) 2024年3月までに、外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - (11) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者（短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校等の卒業生や外国大学日本分校その他の教育施設等の修了者など）
- (注) 出願資格(9)、(10)又は(11)により出願しようとする場合は、本学大学院において出願資格の認定を行います。下記の期日が資格審査申請締切日となっていますので、本学事務局教務係に早めに申し出てください。

【第Ⅰ期】 7月28日（金） 【第Ⅱ期】 12月 1日（金）

4 出願期間

- 【第Ⅰ期】 2023年 9月 1日（金）から 9月 7日（木）（必着）
【第Ⅱ期】 2024年 1月 5日（金）から 1月12日（金）（必着）

5 出願手続

- (1) 入学試験料 30,000円
所定の振込用紙にて振り込んでください。
- (2) 出願方法
出願は、次頁の(3)の出願書類等を整え、持参又は郵送より行ってください。
郵送で出願する場合は、書留速達郵便で送付してください。

(3) 出願書類等

書類等の名称	備 考
①入学願書	本学大学院所定の用紙
②受験票・写真票等	本学大学院所定の用紙 (写真は出願前3か月以内に撮影したもので、無帽上半身、正面向き。裏面に氏名を記入すること。) (入学試験料(30,000円)に係る振込用紙の一番右側の「払込受付証明書(大学提出用)」を、所定の欄に貼付すること。)
③推薦書	国際コミュニケーション研究科所定の用紙により、勤務先所属長が作成したもの
④成績証明書	出身大学が日本語又は英語により発行したもの ※追加で資料を求めることがあります。 【中華人民共和国の高等教育機関を卒業された場合】 中国高等教育学生信息网(CHSI: China Higher Education Student Information)又は中国学歴・学籍認証センター日本代理機構が発行する「成績認証報告書」の英語版を提出すること。
⑤卒業(見込)証明書等	出願資格にかかわるもの (出身大学等の卒業(見込)又は修了(見込)証明書) 注1: 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者については学位授与証明書、授与される見込みの者は学位授与申請受理証明書(ともに大学改革支援・学位授与機構で発行したもの)を提出すること。 注2: 出願資格(6)による出願者は、学位授与証明書や学位記など、授与された学位を証明する書類を提出すること。
⑥志望理由書	国際コミュニケーション研究科所定の用紙(職歴又はその他の社会的経験を踏まえて記述すること。)
⑦受験票等送付用封筒	長形3号の封筒に、住所及び氏名を明記し、定形郵便物(25g以内)の速達料を含めた最低料金(344円分)の切手を貼付してください。
⑧TOEIC(IPを含む)又はTOEFL(TOEFL-PBT, TOEFL-iBT)のスコアシート	出願1年以内に発行されたスコアシートの原本またはコピー(任意) (提出いただいたスコアシートは返却いたしません。)

(4) 出願書類等の提出先

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1
群馬県立女子大学 事務局 教務係

6 選抜方法

(1) 試験科目等

国際コミュニケーション研究科

入学者の選抜は、面接試験及び志望理由書等を総合して判定します。

ア 試験科目

面接試験(志望理由書等について)

イ 試験日時

【第Ⅰ期】 2023年 9月26日(火) 10:00～

【第Ⅱ期】 2024年 1月29日(月) 10:00～

※ 面接試験の受付時間は別途通知します。

(2) 試験場

群馬県立女子大学(群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1)

- (3) 受験上の注意事項
- ・試験当日は、受験票を必ず持参してください。なお、受験票を持参しない場合には、受験を許可しないことがあります。
 - ・面接試験の受付時間内に受付をしなかった者については、受験を認めません。なお、遅刻等の理由が試験当日の公共交通機関の事故又は災害による場合は、試験時間の繰り下げ等の特別措置を行うことがありますので、速やかに本学事務局までご連絡ください。
 - ・試験当日の疾病・負傷によって受験できなかったことによる特別措置は行いません。また、試験時間中の発病等によって一時休養した者についても、試験時間の延長は認めません。

7 合格発表

【第Ⅰ期】2023年10月 5日(木) 午前10時 【第Ⅱ期】2024年 2月 8日(木) 午前10時

(注) 本学に掲示するとともに、合格者には合格通知書を郵送します。なお、本学ウェブページ上にも受験番号を掲載(午前11時頃を予定)しますが、正式には本学内掲示もしくは合格通知書によりご確認ください。また、電話等による合否の照会には一切応じません。

8 入学手続

(1) 入学手続期間

【第Ⅰ期】2023年10月6日(金)から10月16日(月)

【第Ⅱ期】2024年 2月9日(金)から 2月16日(金)

- (2) 合格者には合格通知書とともに、入学手続に必要な書類を郵送します。
- (3) 所定の期日までに入学手続をとらない場合は、入学辞退者として扱います。

9 入学金・授業料等

(1) 入学金

2023年度の額は次のとおりですが、2024年度分については変更されることもありますので、本学事務局教務係まで照会してください。

種別	県内者及び本学の卒業生	県外者	備 考
金額	141,000円	282,000円	入学手続時に納入

(注) 県内者とは、下記の時点で本人、配偶者又は一親等の親族(父母又は子)のいずれかが引き続き1年以上群馬県内に住所を有している者とします。

【第Ⅰ期】2023年10月 1日現在 【第Ⅱ期】2024年 2月 1日現在

※ 入学手続においては、入学金のほか、所定の保険料等の納入が必要となります。

(2) 授業料

2023年度の額は次のとおりですが、2024年度分については変更されることもありますので、本学事務局教務係まで照会してください。

授業料 535,800円(年額) 2期分納(前期分267,900円、後期分267,900円)

なお、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

※ 納入時期は、前期分は4月(入学初年度のみ6月予定)、後期分は10月の予定です。

10 その他

- (1) 出願書類に不備がある場合は、受理しません。
- (2) 一度受理した出願書類及び入学試験料は、返還しません。ただし、次のいずれかに該当する場合は入学試験料を返還しますので、本学教務係までお問い合わせください。
- ・出願書類に不備等があり、受理されなかった場合
 - ・重複して振り込むなど、所定の金額より多く振り込んだ場合
 - ・入学試験料を振込後、本学に出願しなかった場合
- (3) 受験票は郵送しますが、下記の期日までに到達しない場合は、必ず本学事務局教務係まで連絡してください。
- 【第Ⅰ期】2023年 9月19日(火) 【第Ⅱ期】2024年 1月18日(木)

11 学生募集に関する問い合わせ先

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1
群馬県立女子大学 事務局 教務係
電話 0270-65-8511

なお、さらに本学についての情報を得たい方は、ウェブページをご覧ください。

<https://www.gpwu.ac.jp/>

群馬県立女子大学大学院の目的

本学大学院の目的は、新しい知識、情報及び技術があらゆる領域での活動の基盤として重要性を増す社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成を図るとともに、広い視野に立って精深な学識を授け、研究能力又は高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことにあります。

学部で学問を修めることの意義を実感してさらに高度の研究を志される方のほか、大学卒業後、社会で活躍される中で改めてその社会での経験を通して形成された問題意識などを整理したり、キャリアアップの必要を実感されたりしている方、さらに、学部で何を学んだかということにこだわることなく、新たなる課題に意欲的に取り組もうとされる方や留学生の方などと、研究し学ぶことの楽しさを分かち合いたいと思っています。

群馬県立女子大学大学院文学研究科の案内

□大学院文学研究科の目的

文学研究科修士課程は、日本文学、英米文化、芸術学、複合文化の4専攻からなる男女共学の大学院です。

文学研究科の目的は、伝統的な学問研究の基本的な枠組みを維持して専門分野の研究に必要な素養を身に付けた人材の育成を図るとともに、高度の学業及び研究を積んだ研究者並びに高度の専門性に裏付けられ、様々な職域及び地域の発展に寄与し得る人材を育成することにあります。

高度に情報化した現代社会においては、高等教育の場である大学院に求められる社会的な要請も多様化してきました。こうした要請に文学研究科として対応するため、専門分野の研究に必要な能力を着実に養うだけではなく、新時代のニーズにも応じた高度の専門性を要する職業に適応する能力や教養などを培うことにも積極的な役割を果たしていこうとしています。

□大学院文学研究科の概要

文学研究科の教育と研究は、2年以上在学し、授業科目の単位を各専攻の規定に基づいて30単位以上修得し、さらに、個別の研究指導の下に修士論文、修了制作又は課題研究の作成をすることによって行われます。

文学研究科では、学生が既存の学問の枠組みにこだわることなく斬新な視点と清新な発想とによって知見を拡大し、新しい学際的な課題に意欲的にチャレンジすることも期待しています。そのため、同じ文学研究科内の他専攻の授業科目を積極的に活用できるように配慮するとともに、他大学院との単位互換や共同研究、学生交流なども進めており、教育・研究における協力関係の構築や国際的な発展も視野に入れるように努めています。殊に、本学(人文科学系)、高崎経済大学(社会科学系)、前橋工科大学(工学系)の三公立大学が教育・研究などで相互協力を進め、国際水準の大学を目指して連携し、三大学の大学院間での単位互換制度が実施されています。文学研究科の枠を越えて視野を拡げ、新しい展望を拓くために、こうした制度を活用することができます。

教員資格に関しては、既に学部で一種教員免許状の授与資格を得た学生が対応する専攻で修士の学位を得た場合には、専修免許状(国語、英語又は美術)を取得することができます。現職教員の方が専門教科に関する再研修や教育の実践活動を通じて培われた問題意識の整理・分析を行う機会を確保するために、「大学院修学休業制度」を利用して在職のまま専修免許状の取得を目指される場合には、教育方法の特例などを設けて便宜を図っています。また、職業を有する方などは、「長期履修学生制度」を利用して、職業と学業とを両立させつつ最長6年間の履修が可能です。

また、文学研究科では、教育と研究とを通して、在学生の意欲的な研修や修了生の研究成果の公表を支援するために、紀要『大学院諸究』を発行しています。

文学研究科の修了者は、研究能力をさらに確かなものとするために博士課程に進学したり、高度な専門性を身に付けてそれぞれの職域や地域での発展に寄与する道を選んだり、より高度な実践力や清新な発想を活かして教育界で活躍したりしています。

この「文学研究科の案内」は、2023年度の授業内容と担当教員を記載しています。ただし、2023年度末までに退任する専任教員については記載せず、その担当科目については、「未定」と記載するか削除してあります。

日本文学専攻の特色と研究指導・授業科目

1 本専攻の特色

本専攻は、上代・中古・中世・近世・近現代の日本文学に、日本語学、漢文学及び日本語教育学を加えて、文学・語学を総合的・歴史的に学ぶと同時に、個別のテーマによって研究を行い、研究者や高等学校教員・日本語教員等として活躍できるような、高度で幅広い学識・教養を身に付けることを目標としています。

本専攻は、各時代・各分野を専攻する教員で組織され、次のような研究が活発に行われています。

日本文学関係では、上代・中古・中世・近世・近代・現代の各時代の文学を専門とする教員が揃っており、神話・物語・和歌・俳諧・小説・詩歌・評論など多くのジャンルにわたる作品や作家の研究が行われ、さらに日本文学との関わりを視点とする漢文学の研究も行われています。

また、日本語学では理論や方言の研究、そして外国人に対する日本語教育の研究が行われています。

授業科目は、以上の諸研究を有機的に関連、発展させるかたちで、「研究法」「研究」「演習」「特講」などの科目が展開されています。

修士論文は、志望する研究分野に対応できる複数の指導教員のもとで、一年次からテーマの決定・文献調査の方法などについて詳細かつ具体的な指導を受けて完成させ、課題研究も、同様の指導体制のもとで、与えられたテーマに対する報告書を完成させていきます。

なお、院生の研究成果の発表の場として論文集が公刊され、また、本学国語国文学会の研究発表大会や研究誌があり、積極的かつ有効に利用されています。

受験生へのメッセージ

本専攻で学びたい学生には、次のことを希望します。

現代の国際化社会の中で日本人が立脚している足元に強い関心を持ち、その意味をより深く探求することを望むこと、具体的には、日本文学・日本語学・漢文学・日本語教育学のいずれかの分野について基礎的な知識を持ち、さらにそれを深めようとする意欲を持っていること。

そして各々の課題を追求しながら、その成果を広く学会に披露し、またそこで培われた力を、学校教育、社会人教育、外国人への日本語教育など、社会のさまざまな場に還元することを意識して、研究に励むことを期待します。

2 指導教員及び授業科目

□ 指導教員

鈴木 崇大
板野 みずえ
二村 博
市川 祥子
権田 和士
富岡 宏太
新井 小枝子
井上 一之
國澤 里美

□ 授業科目

日本語日本文学研究法	専門的な研究法の概要の理解と基礎的な修得をめざす (市川(祥)教授、國澤准教授、板野准教授)
日本語学研究 1	日本語文法の史的研究の方法を身につける (富岡准教授)
日本語学研究 2	日本語における語彙の体系記述や歴史的研究をおこなう (新井教授)
日本語学演習 1	日本語史研究のうち、共時的な問題点を自ら見つけ出し解決する方法を身につける (富岡准教授)
日本語学演習 2	解釈文法について理解し、文法を作品の理解に応用する方法を身につける (富岡准教授)
日本語学演習 3	日本語方言の研究方法を身につけ、具体的に分析を行う (新井教授)
日本語学演習 4	日本語のあらゆる辞書の特徴を理解し、言語の共時態や通時態をとらえる力を養う (新井教授)
上代文学研究	いわゆる「越中万葉」を精読する (鈴木(崇)准教授)
中古文学研究	<今年度休講>
中世文学研究	歌論の読解を通して、中世文学の問題点を分析する力を養う (板野准教授)
近世文学研究	近世俳人の書簡の解読を通じて近世俳諧文学研究の方法を養う (二村准教授)
近代文学研究 1	明治30、40年代の小説・戯曲・評論を取り上げて分析する (市川(祥)教授)
近代文学研究 2	未定
現代文学研究	現代文学研究の歴史を概観し、研究方法に対する批判的視点を養う (権田教授)
漢文学研究	『靖節先生集』を旧注に従って読む (井上教授)
日本語教育学研究	現代日本語について主に記述文法の立場から考察し、日本語教師に必要な日本語を客観的に分析する力を養う (國澤准教授)
上代文学演習 1	飛鳥時代の倭歌を分析する (鈴木(崇)准教授)
上代文学演習 2	奈良時代の倭歌を分析する (鈴木(崇)准教授)
中古文学演習 1	<今年度休講>
中古文学演習 2	<今年度休講>
中世文学演習 1	『新古今集』を題材に、和歌の注釈・分析方法を身につける (板野准教授)
中世文学演習 2	京極派の歌合を題材に、和歌の注釈・分析方法を身につける (板野准教授)
近世文学演習 1	影印本『おらが春』の読解を通じて近世俳諧研究の方法を養う (二村准教授)
近世文学演習 2	伊勢崎俳人似鳩著『栗庵日記』の読解を通じて地方俳諧の研究方法を養う (二村准教授)
近代文学演習 1	明治～大正期の短編小説を、発表年順に毎回一作ずつ取り上げて分析する (市川(祥)教授)
近代文学演習 2	明治30、40年代の小説・戯曲を取り上げて分析する (市川(祥)教授)
近代文学演習 3	未定
近代文学演習 4	未定
現代文学演習 1	現代の短編小説を対象に注釈などの基礎的な作業や本文の分析を行う (権田教授)
現代文学演習 2	現代の長編小説を対象に注釈などの基礎的な作業や本文の分析を行う (権田教授)
漢文学演習 1	唐代伝奇と日本近代文学 (井上教授)
漢文学演習 2	『靖節先生集』を旧注に従って読む (井上教授)
日本語教育学演習 1	レベル別に教科書分析を行い、教案・教材を作成する (國澤准教授)
日本語教育学演習 2	理論的背景を踏まえ、技能別に教室活動を考える (國澤准教授)
日本語日本文学特講 1	日本文学の研究方法を多面的に身につける (木下(華)講師)
日本語日本文学特講 2	<今年度休講>
日本語日本文学特講 3	<今年度休講>
基礎研究	研究分野における基礎的知識を涵養し、研究方法を会得する (専任教員)
個別研究指導	各自の研究課題をより明確化し、その研究のための方法論を身につけさせる (専任教員)

3 専任教員の研究分野

准教授 鈴木 崇大 [上代文学]

専門分野および研究紹介

上代文学、特に『万葉集』を研究しています。今までは山部赤人という聖武朝の初期に活躍した歌人の作品について、時代状況と関わらせながら考察を重ねてきました。現在では、時代をさかのぼって飛鳥時代の作品にも関心を持っています。

著書・論文等

「山部赤人の吉野讃歌第一歌群」（『国語と国文学』99-11 2022.10）、「辛荷島作歌考」（『高岡市万葉歴史館紀要』31、2021.3）、「王を詠む」（『美夫君志』100 2020.3）、「「歌」を「思」ということ」（『上代文学』115 2015.11）

准教授 板野 みずえ [中世文学]

専門分野及び研究紹介

中世和歌について研究しています。『新古今和歌集』が主な研究対象ですが、「叙景」というテーマにも興味があり、京極派の和歌などに問題を押し広げて研究を進めているところです。先行研究で扱われてきた「景」と「心」という概念が一首の中でどのような関係にあるのか、最終的にはこの概念を乗り越えることも視野に入れて考えていきたいと思っています。

著書・論文等

「新古今時代の和歌における「身」」（『国語と国文学』99-1、2022年1月）、「新古今時代における寂蓮——『八雲御抄』『京極中納言相語』の寂蓮詠批判をめぐって」（『和歌文学研究』119、2019年12月）、「新古今時代の和歌における「ながむ」」（『国語と国文学』96-3、2019年3月）、「「むすばほる」考——新古今時代の用法を中心に——」（『国語と国文学』94-4、2017年4月）、「藤原良経の「風」表現」（『国語と国文学』92-2、2015年2月）、「藤原良経の歌壇活動——歌題設定を中心に——」（『和歌文学研究』109、2014年12月）

准教授 二村 博 [近世文学]

専門分野及び研究紹介

小林一茶が活動した文化文政期の近世俳諧文学を中心に研究をしています。近世においては全国的に幅広く俳人間の交流があり、刊行物、書簡、短冊、石碑等の資料が数多く遺されています。資料の解読調査を通じて近世俳諧文化の実態を探究します。

著書・論文等

『俳人藤森素槩全集』（信濃毎日新聞社、1998年、矢羽勝幸・二村博共編著）、『俳人塩田冥々 - 人と作品』（象山社、2003年、矢羽勝幸・二村博共編著）、『鴛鴦俳人恒丸と素月』（歴史春秋社、2012年、矢羽勝幸・二村博共編著）、「筑波庵翠兄の俳諧道場」（『人間科学』第38巻1号、2020年9月）、「化政期会津俳人の西国旅行 - 『関本如髮集成染筆帖』を中心に -」（連歌俳諧研究第142号、2022年3月）

教授 市川 祥子 [近代文学]

専門分野及び研究紹介

日本の近代文学、特に泉鏡花を研究の対象としています。作品に引用された説話の機能や、戯曲の構造に関心があります。また、これまであまり研究されてこなかった、大正期に活躍した群馬県出身の作家についても基礎的な調査を進めています。

著書・論文等

「『外科室』論—外科手術の実際から—」（『群馬県立女子大学国文学研究』第43号、2023.3）、「『天守物語』初演と芸術祭」（『群馬県立女子大学紀要』第44号、2023.2）、「『吉原新話』と『縁日商品』」（『群馬県立女子大学国文学研究』第42号、2022.3）、「吉井勇脚色『高野聖』の上演をめぐって」（『群馬県立女子大学紀要』第43号、2022.2）、「『草迷宮』論—自筆原稿から見えること—」（『論集泉鏡花』第6集、和泉書院、2021.8）、「『狸囃子』と『陽炎座』」（『群馬県立女子大学国文学研究』第41号、2021.3）「吉井勇『蓮月』の成立と上演—『日本橋』『売色鴨南蛮』の引用に触れて—」（『群馬県立女子大学紀要』第42号、2021.2）、「『錦染滝白糸』と『掬縁滝白糸』」（『群馬県立女子大学国文学研究』第40号、2020.3）、「『滝の白糸』の昭和八年（一九三三）、昭和一六

年（一九四一）」（『群馬県立女子大学紀要』第41号、2020.2）、「上毛新聞文芸関連記事調査」【1】～【8】（『群馬県立女子大学紀要』第26号～第33号、2005.2～2012.2）

教授 権田 和士 [現代文学]

専門分野及び研究紹介

小林秀雄を中心に、昭和時代に活躍した文学者について研究しています。また近代の文学者たちの宗教への対応にも興味を持っています。文学者達が時代思潮や政治状況に対峙することで生み出した多様な表現の意味を考察していきたいと思っています。

著書・論文等

「白洲正子『私の自然観』を原稿で読む」（『群馬県立女子大学紀要』2011・2）、「太宰治の方法と文体」（安藤宏編『展望太宰治』2009刊）、「小林秀雄『本居宣長』の材源と論理」（『群馬県立女子大学国文学研究』2007・3）「小林秀雄『本居宣長』の神話理解と言語観」（『国語と国文学』2006・11）

准教授 富岡 宏太 [日本語学]

専門分野及び研究紹介

日本語の歴史、特に古代語の文法を研究しています。終助詞・間投助詞と呼ばれる助詞群の意味や用法の違いを明らかにすることや、文法研究の成果を作品の解釈に活かす方法の構築に、主な関心があります。

著書・論文等

「中古和文の文末助詞「や」－係助詞文末用法と終助詞－」（『群馬県立女子大学国文学研究』40、群馬県立女子大学国語国文学会、2020年3月）、「終助詞が必須となる時－中古和文と現代語の命令形－」（『国語研究』82、國學院大學国語研究会、2019年2月）、「中古和文の助詞カシ」（『日本語の研究』13-4、日本語学会、2017年10月）、「文末助詞カナの上接語句と文体差」（『文学・語学』214、全国大学国語国文学会、2015年12月）、「中古和文における体言下接の終助詞カナ・ヤ」（『日本語の研究』10-4、日本語学会、2014年10月）

教授 新井 小枝子 [日本語学]

専門分野及び研究紹介

地域の生活語である方言を中心に、日本語の研究をしています。語彙や意味の記述研究、対照研究に取り組み、地域の言語体系に、そして、日本語の言語体系にせまります。時と場をともなって発せられる音声言語を出発点とし、その背後にある地域の歴史や文化をよみとき、言語の本質を考えます。

著書・論文等

『実践方言学講座第1巻 社会の活性化と方言』（くろしお出版、2020年12月、編著）、『シリーズ日本語の語彙8 方言の語彙－日本語を彩る地域語の世界－』（朝倉書店、2018年10月、共著）、『新日本言語地図－分布図で見渡す方言の世界－』（朝倉書店、2016年12月、共著）、『絹のこぼれ』（上毛新聞社、2012年10月）、『養蚕語彙の文化言語学的研究』（ひつじ書房、2010年11月）、「〈蚕〉を表す語彙－造語法と方言分布－」（『地域政策研究』19-1、高崎経済大学地域政策学会、2017年3月）、「群馬県方言における粉食に関する語彙－粉食語彙の記述的研究から粉食文化の解明へ－」（『方言の研究』1、日本方言研究会編、ひつじ書房、2015年9月）、「伊藤信吉方言資料にみる〈桑の実〉の方言分布－多様な方言資料を横断的に利用した方言研究のために－」（『国文学研究』34、群馬県立女子大学国語国文学会、2014年3月）

教授 井上 一之 [中国文学]

専門分野及び研究紹介

『文選』・陶淵明を中心に、六朝時代の文学を研究しています。これまでは、詩語論と様式論の観点から、諸作品の研究に取り組んできました。現在の関心は、淵明の思想内容の究明にあり、中国中世の知識人たちに共通する思想的問題（判断基準）を整理したいと考えています。

著書・論文等

『続校注唐詩解釈辞典』（2001年、大修館書店、共著）、「賦と声律化－沈約「郊居賦」を中心に－」（1999年、早稲田大学文学部『中国詩文論叢』第18集）、「沈約の文学理論」（2001年、華東師範大

学出版社『古代文学理論研究』第19期）、「『三言』という名の様式」（2001年、『中国詩文論叢』第20集）、「陶淵明『詠荊軻詩』について—報恩輕生の適否」（2011年、研文社『新しい漢字漢文教育』第52号）

准教授 國澤 里美 [日本語教育学]

専門分野及び研究紹介

外国語として日本語を学ぶことについて考えています。コースデザインや自律学習など、日本語学習者の学びをどのように支援するかについて関心があります。また、現代日本語のモダリティ形式にも興味があり、世代差の観点から研究しています。

著書・論文等

「中級『漢字・語彙』クラスにおける自律学習の実践—日本語コースデザインの改善を通して—」（『名古屋学院大学論集 言語・文化篇』28-2、2017年3月、共著）、「交換留学生を主体とした初級日本語クラスのコースデザイン」（『名古屋学院大学論集 言語・文化篇』27-2、2016年3月、共著）、「語用論の観点から見た認識のモダリティ形式『カモンレナイ』について」（『言葉と文化』14、2013年2月）、「『～ヨウトスル』の許容度に見られる世代差—一人称主語と三人称主語の比較—」（『日本文化學報』50、2011年8月）

英米文化専攻の特色と研究指導・授業科目

1 本専攻の特色

英米文化専攻は英語学、英米文学、英米文化の三分野から構成され、英語、英米の文学、文化を中心とする研究を通して学際的な教養を修得し、大学、高等学校、中学校教員をはじめ、さまざまな分野で活躍できる人材の育成を目標としています。

英語学の授業では、英語に関する研究、演習を行います。英語の意味と形式、語、文、談話、コミュニケーションという観点から、さらに必要に応じて日本語との比較をしながら、英語のしくみを考察します。また外国語としての英語を学ぶ・教えるという視点から、英語教育学を研究する授業もあります。英語学、英語教育学ともに、文献の精読とデータ分析を通して、問題を深く追究していきます。

文学の授業では、英米の詩、小説、演劇、批評に関する研究、演習を行っています。特定の国の特定の文化環境の中で生み出されてきた「文学」ということばの贈りものが、個人を越え、時代を超えて、世界の人々に送られつづけている事実を、少しでも親しく、こまやかに感受できることを目指します。

文化の授業では、具体的な作品や史実、思想、伝統、広義の制度や価値観といった文化的事象それ自体の研究はもとより、研究をするうえでの姿勢と方法も学びます。たとえば、歴史に対して真摯に向き合い、また隣接する他の事象にも積極的に目配りをするという態度を養い、一方で分析、考察のための視座や理論を身に付けます。

修士課程での最大の研究活動は修士論文の執筆といえます。本専攻では、大学院生がひとりの研究者としてそれぞれの関心事に沿った十分な研究が遂行できるよう、複数の教員による指導体制をとり、手厚い論文指導を行います。

なお、大学院生の研究成果の発表の場として、群馬県立女子大学英米文化学会の大会や研究誌があり、積極的に活用されています。さらに、学外での研究発表に対しては、本学会からの支援もあり、利用が期待されています。

受験生へのメッセージ

わたしたちの研究は、特定の視点を通してはじめて見えてくる世界を対象にしています。ですから、その世界に近づくためには、研究者が各々固有の問題意識を持っていなければなりません。個人個人の問題意識は英語研究、文学研究、文化研究のなかに独自の場所を見いだす出発点であると同時に、既存の研究に疑問を投げかけるよりどころとなるでしょう。大学院での研究活動は、このように、最初は個人的とも言える小さな関心を次々に連鎖させ、同じ問題を扱った先行研究を検討し、次第に大きく展開してゆく過程です。外国語の文献を読みこなす語学力、どこまでも対象を追ってゆく粘り強い資質、そして果敢な批判精神が必須です。熱い探究心を期待しています。

2 指導教員及び授業科目

□ 指導教員

小林 隆
飯村 英樹
清水 啓子
松崎 慎也
島田 協子
小林 徹
笠井 俊和
木下 耕介

□ 授業科目

英語学研究 3	語用論の基本的な考え方・理論を学ぶ	(小林(隆)准教授)
英語学演習 7	英語の文法と意味を研究する方法を学ぶ	(小林(隆)准教授)
英語学演習 8	英語の談話標識についての種類と用法を学ぶ	(小林(隆)准教授)
英語学研究 4	英語教育研究の論点と手法を学ぶ	(飯村教授)
英語学演習 3	英語教育研究における基礎概念を理解する	(飯村教授)
英語学演習 4	英語教育研究の論点と手法を学ぶ	(飯村教授)
英語学研究 5	認知意味論・認知文法のアプローチから英語を分析する	(清水(啓)教授)
英語学演習 5	認知言語学の入門書を読み、英語や言語一般について考える	(清水(啓)教授)
英語学演習 6	語彙や構文の意味について、特にその多義性について考える	(清水(啓)教授)
英語学研究 1	英語エッセイライティングから論文作成基礎までを学ぶ	(原島講師)
英語学演習 2	ICTを利用した英語の学習と教育の様々な方法を実践的に学ぶ	(原島講師)
英語学研究 2	<今年度休講>	
英米文学研究 1	英詩の鑑賞法を学ぶ	(松崎教授)
英米文学演習 1	文学作品の精読、鑑賞結果の発表を行う	(松崎教授)
英米文学演習 2	英詩の鑑賞法を学ぶ	(松崎教授)
英米文学研究 2	英米文学作品の分析と批評の方法を学ぶ	(島田教授)
英米文学演習 3	英米文学作品の読解と研究の方法を学ぶ	(島田教授)
英米文学演習 4	歴史的な文脈の中での英米文学研究の方法を学ぶ	(島田教授)
英米文学研究 3	<今年度休講>	
英米文学演習 5	<今年度休講>	
英米文学演習 6	<今年度休講>	
英米文化研究 1	批評理論を読む	(小林(徹)教授)
英米文化演習 1	論文作成のための実質的な準備を行う	(小林(徹)教授)
英米文化演習 2	批評理論を読む	(小林(徹)教授)
英米文化研究 2	邦語文献を批判し、論理的思考を磨く	(笠井准教授)
英米文化演習 3	論文の作成に向けてアメリカ文化の諸相を学ぶ	(笠井准教授)
英米文化演習 4	英語文献を批判し、論理的思考を磨く	(笠井准教授)
英米文化研究 4	テキストを精読し、今日の映像文化を歴史的に考察する	(木下准教授)
英米文化演習 7	映像の形式及び内容についての分析の方法論を学ぶ	(木下准教授)
英米文化演習 8	今日の映像文化についての理論的視座を得る	(木下准教授)
英語表現演習 1	英語による学術論文作成の基本を会得する	(未定)
英語表現演習 2	個別に指導を受け、実際の英語論文作成を行う	(未定)
英語特別演習 1	教員採用試験に備えて、英語の構文と語彙への理解を深める	(清水(啓)教授)
基礎研究	研究分野における基礎的知識と研究方法を修得する	(専任教員)
個別研究指導	個別に指導を受け、各自の研究課題に取り組む	(専任教員)

3 専任教員の研究分野

准教授 小林 隆 [英語学]

専門分野及び研究紹介

英語の会話表現、特に「一人称代名詞＋現在形動詞」の形をしたI mean, I think, I (don't) knowなどの表現が、「会話でどのように用いられているのか」「話し手はなぜそれを用いるのか」ということについて、語用論と認知言語学の理論的観点から分析・考察しています。

著書・論文等

「アメリカの大学生の会話におけるI don't knowの用法について」（『日本語用論学会第23回大会発表論文集』第16号、2021年）、*'I mean' as a marker of Intersubjective Adjustment: Cognitive Linguistic Approach*（ひつじ書房、2018年）、「I mean とI knowの使用の傾向と動機を探る——語用論からみた評言節——」（米倉綽・中村芳久編『英語学が語るもの』くろしお出版、2018年）

教授 飯村 英樹 [英語教育]

専門分野及び研究紹介

学習者の能力を正しくとらえるための英語テストの作成法と評価法に関する研究を続けています。また英語力を高める授業デザイン、指導法、活動、タスクについて理論的背景をもとに検討しています。

著書・論文等

『実例でわかる英語テストガイド』（小泉利恵・印南洋・深澤真（編著）大修館書店、2017年）、Are the least frequently chosen distractors the least attractive?: The case of a four-option picture-description listening test（日本言語テスト学会、JLTA Journal、19号、2016年）、「模倣音読」活動が音読技能およびスピーキング力を与える影響（全国英語教育学会、飯村英樹&高波幸代 ARELE、27号、2016年）

教授 清水 啓子 [英語学]

専門分野及び研究紹介

英語ではなぜこういう言い方をするのだろうかという問いに対して、認知意味論・認知文法のアプローチから答えを探そうとしています。また言語の変化や多義性に関心があり、語彙・形態素・構文の多義構造、文法化現象を研究しています。目下のところ、英語の進行形構文に関心を持ち、その機能の多様性を考察しています。

著書・論文等

「英語進行形構文の命令的用法—認知言語学的考察—」（JELS 第33巻、2016年）、「間主観性、および行為と意図のメトニミー関係からみた行為解説の進行形」（『日本認知言語学会論文集』第14巻、2014年）、「英語結果構文の結果述語に関する一制約」（『日本認知言語学論文集』第5巻、2005年）

教授 松崎 慎也 [イギリス文学]

専門分野及び研究紹介

イギリス・ロマン主義文学の研究をしています。これまで、キーツ、ブレイク、ワーズワースといった詩人を対象に研究し、論文を執筆しています。関心のある問題は、作品の中の、思考過程、視点、イメージ、アイロニー、文化的表象、それと作家の、自然観、世界観、宗教観、そして複合芸術のあり方などです。

著書・論文等

「陽気な花—細見綾子とワーズワースのアニミズム詩歌」（『群馬県立女子大学 英米文化研究』第10号、2020年）、「キーツのギリシア」（長尾輝彦編著『文学研究は何のため—英米文学試論集』北海道大学出版会、2008年）、“The Structural Relation between Word and Picture in Blake's *Songs of Innocence and of Experience*”（『北海道英語英文学』第49号、2004年）

教授 島田 協子 [イギリス文学]

専門分野及び研究紹介

19世紀末から20世紀初頭にかけての、言語表現のあり方に関心があります。これまで、モダニズム文学の成立と発展を、主にT.S.Eliotを中心として研究してきました。「語り」の持つメカニズムに着目しながら、詩と散文との違いや、作家を取り巻く文化的コンテクストとの関連性も含めて「言葉で何かを表現するとはどういうことなのか」を考えています。

著書・論文等

「W.H. オーデン『夜行郵便』における詩作とテクノロジー」（『群馬県立女子大学紀要』第39号、2018年）、「The Indeterminacy of Pronouns in “The Love Song of J. Alfred Prufrock”」（『群馬県立女子大学紀要』第33号、2012年）、「イギリスで語るために—大衆文化と『伝統』」（高柳俊一他編『モダンにしてアンチモダン—T.S.エリオットの肖像』研究社、2010年）

教授 小林 徹 [イギリス文化]

専門分野及び研究紹介

理論を仲立ちにして、作品と文化のあいだを縦横に往還することから浮かび上がってくる事柄について興味があります。なおここでいう理論とは、さらなる思考を促す多種多様な言説のことであり、作品とは、主にイギリスにおける文学作品、また映画を、それから文化とは、イギリスを中心とした広く西欧におけるそれを指しています。そしてこうした研究態度のもとにこれまで、イギリスロマン主義文学を主たる対象として、西欧における自己をめぐる諸問題について、また、たとえば小説の映画化といったメディア変換の時点で生ずる様々な力学のありようについて考察を行ってきました。

著書・論文等

“‘Spirits,’ ‘the Infant Babe,’ and ‘the Spots of Time’: The Mode of Autobiography in Wordsworth’s *The Two-Part Prelude* (1799)”（『I V Y』第29巻、1996年）、「機械が造るモンスター—『フランケンシュタイン』、映画、そして1930年代初頭—」（『I V Y』第36巻、2003年）、「Maria’s Narrative Goes Far: Mary Wollstonecraft’s *The Wrongs of Woman: or, Maria. A Fragment* and a Possible Usage of the Autobiographical Mode”（*Ivy Never Sere* 音羽書房鶴見書店、2009年）

准教授 笠井 俊和 [アメリカ文化]

専門分野及び研究紹介

17・18世紀のアメリカの社会史を研究しています。特に船乗りと貿易に関心があり、輸出入された商品に関する数量的な貿易研究ではなく、その貿易を担った船乗りの人間像や役割について考察してきました。情報網が発展途上だった当時において、貿易のために船で各地を移動する船乗りは、陸に住む民衆よりもいち早く様々な情報を入手していたことから、情報伝達媒体としての船乗りの価値にも注目しています。

著書・論文等

『船乗りがつなぐ大西洋世界—英領植民地ボストンの船員と貿易の社会史』（晃洋書房、2017年）、「船乗りと航海譚—英領アメリカ植民地における貿易と情報伝達」（田中きく代ほか編『海のリテラシー—北大西洋海域の「海民」の世界史』創元社、2016年）、「アメリカ史を学ぶためのウェブサイト・文献案内」（和田光弘編『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014年）

准教授 木下 耕介 [映像文化]

専門分野及び研究紹介

アメリカ映画と北米の映画理論を参照しながら、映画の物語と登場人物について、またそれに対する我々観客の反応について思考を重ねています。映画という媒体にとって、現在の最大の関心事のひとつは、その様々な可能性にもかかわらず、視聴覚の経路によって時間と空間とを構築しながら、その中での登場人物の行動と反応とを描出することにあるようにみえます。ではその登場人物とはいかなる存在物か、それは我々人間自身の理解とどのような係わり合いをもつのか。それが思考の中心にある疑問です。

著書・論文等

「『参加者』の理論構築に向けて——プロテウス効果の演劇・映画研究への応用可能性についての試論——」（『演劇学論集』第70号、2020年）、「表象の複層性とマルチモジュール処理—領域横断的登場人物研究に向けて—」（『群馬県立女子大学紀要』第40号、2019年）、「スクリーン上の仮想世界—『トロン』から『アバター』まで—」（『JunCture 超域的日本文化研究』03号、2012年）、「“Focalization and Point of View in the Cinema”（*Iconics* Vol.9、2008）

芸術学専攻の特色と研究指導・授業科目

1 本専攻の特色

本専攻は、美学、美術史（日本・西洋）、アートマネジメント、実技の4つの領域から構成されています。芸術の体系的並びに歴史的研究を深めること、実践的研究や制作活動のレベルを上げることによって、芸術及び文化の本質を理解する人材の育成を目標としています。

美学では、人間の感性や表現を対象とする哲学としての美学に加え、美術・音楽・舞踊・映像などの芸術諸ジャンルに関わる芸術学的研究を行います。思想史や文化史などの歴史的な文脈をも踏まえながら、美学と芸術学のさまざまな領域を研究します。

日本美術史では、主に中・近世絵画史及び古代から近代の彫刻史を対象としますが、とりわけ室町時代後期から江戸時代を通じて活動した狩野派の絵師と作品、多様な展開をみせた鎌倉時代の仏教彫刻や肖像などについて、作品と文献史料の両面から検討し、社会的観点も視野に入れながら研究します。

西洋美術史では、古代およびルネサンス・バロック期の美術を主な範囲とします。ギリシア・ローマ神話やキリスト教図像の伝統、古代とその後世への影響、社会における美術の受容、美術コレクションの歴史などを研究します。

アートマネジメントでは、資料分析等の理論研究、美術館や地域の連携事業に関わる実践研究の双方を探究できます。同時に企画立案、実践、報告書作成などの一連の流れを体験し、アートの現場で即戦力となる力も養うことができます。

実技では、絵画、デザインなどの制作を通じて、さまざまな表現の可能性を探究します。絵画では、作品発表を前提として平面作品（油彩画、アクリル画、水彩画、銅版画等）、ミクストメディア、インスタレーションなどの表現を研究します。またデザインでは、社会との連携授業を行います（商品開発、作品制作及び展示）。さらにデザインに必要なデザイン力を養うため、手描きやPCなどを用いて実践的に研究します。

受験生へのメッセージ

本専攻で学びたいと思う学生には次のようなことを希望します。芸術全般に広く興味を持つとともに、自分の専攻したいと思う分野に対して強い探究心を持っていることが大切です。また、以上に記したことを学んで行くに当たって、美学と美術史及びアートマネジメントに関して全般的な基礎知識を有することが望まれます。実技においては、独自の発想や豊かな感性に加え、素描力と色彩表現力が求められます。さらに、各分野での学問を専門的に追究し、その成果を社会に還元したいと願う学生を希望します。

2 指導教員及び授業科目

□ 指導教員

武藤 大祐
三宅 秀和
藤沢 桜子
大野 陽子
奥西 麻由子
山崎 真一
高橋 綾

□ 授業科目

美学特殊研究 1	芸術化 (artification) の研究	(武藤准教授)
美学特殊研究 2	<今年度休講>	
美術史特殊研究 1	未定	
美術史特殊研究 2	狩野派および大名家の美術に関する研究	(三宅准教授)
美術史特殊研究 3	ルネサンス・バロック美術研究	(大野准教授)
美術史特殊研究 4	本学史研究としての本学美術作品等の調査・研究	(藤沢教授)
美術史特殊研究 5	ユーラシアの美術と図像学－東西美術の比較論	(北講師)
アートマネジメント 特殊研究 1	アートマネジメントに関する調査、報告書検討	(奥西准教授)
美 学 演 習 1	<今年度休講>	
美 学 演 習 2	<今年度休講>	
美 学 演 習 3	身体論を読む	(武藤准教授)
美 学 演 習 4	芸術作品／体験の分析	(武藤准教授)
美 術 史 演 習 1	未定	
美 術 史 演 習 2	未定	
美 術 史 演 習 3	絵画を中心とした日本美術史研究の方法論	(三宅准教授)
美 術 史 演 習 4	日本絵画に関する作家・作品研究	(三宅准教授)
美 術 史 演 習 5	西洋美術の研究論文を読む	(大野准教授)
美 術 史 演 習 6	ルネサンス・バロック美術の文献講読と作品研究	(大野准教授)
美 術 史 演 習 7	西洋美術の作品分析	(藤沢教授)
美 術 史 演 習 8	ギリシア・ローマ美術における肖像の研究	(藤沢教授)
アートマネジメント 演習 1	美術館連携事業の計画及び実践	(奥西准教授)
アートマネジメント 演習 2	企画実践のプロセスと実際	(奥西准教授)
絵 画 実 技 1	油彩画やミクストメディアを主とした絵画表現の実践	(山崎(真)教授)
絵 画 実 技 2	作品発表を軸にさまざまな表現方法による制作を試みる	(山崎(真)教授)
絵 画 実 技 3	銅版画を主とした版表現の習得	(山崎(真)教授)
デザイン実技 1	生活用品、健康雑貨等のデザイン及び、社会機関とのコラボレーションを行う	(高橋教授)
デザイン実技 2	実技教科に必要な基礎的なデッサン力、構成力の向上	(高橋教授)
デザイン実技 3	視覚又は、立体デザインに必要なデッサン力、構成力のさらなる向上	(高橋教授)
C G 特殊研究 4	「空間的」思考についてのコンピュータを用いた研究と制作	(下山講師)
個 別 研 究 指 導	個別に指導を受け、論文、制作等、各自の研究課題に取り組む	(専任教員)

3 専任教員の研究分野

准教授 武藤 大祐 [美学・舞踊学]

専門分野及び研究紹介

舞踊の研究をしています。舞台のみならず、娯楽や民俗芸能あるいは映像表現の中の舞踊まで幅広く視野に入れています。現在の具体的な研究対象は、日本を含む近現代アジアを軸とした舞踊のグローバルヒストリーと、振付の理論です。

著書・論文等

共著 *Choreography and Corporeality: Relay in Motion* (Palgrave Macmillan, 2016 年)、『バレエとダンスの歴史——欧米劇場舞踊史』(平凡社、2012 年)、*Theater in Japan* (Theater der Zeit, 2009 年)、論文「芸術化された舞踊としての日本舞踊——新舞踊運動をめぐる考察」(『群馬県立女子大学紀要』第 44 号、2023 年)、「デニシオン舞踊団来日公演における石本男爵の公演評」(同 第 42 号、2021 年)、「デニシオン舞踊団のアジア巡演におけるヴァナキュラーな舞踊文化との接触——インドの「ノーチ」と日本の「芸者」をめぐる」(『舞踊學』第 43 号、2020 年) など。

准教授 三宅 秀和 [日本美術史]

専門分野及び研究紹介

狩野派を中心に、中・近世の日本絵画史を研究していますが、大名家の美術全般や、近代の日本画にも関心を持っています。作品の造形上の分析とともに、制作者の関心や注文主の意向、制作された時代の規範や慣習、伝世過程も文献史料に基づいて考えるようにしています。

著書・論文等

「狩野光信様式の達成と永徳画との関わりについて」(佐野みどり先生古希記念論集刊行会編『造形のポエティカ』青簡舎、2021 年)、「東京富士美術館所蔵の源氏物語図屏風について—狩野光信様式の源氏絵として」(『群馬県立女子大学研究紀要』41 号、2020 年)、「永青文庫所蔵の洋人奏楽図屏風について」(『洋人奏楽図屏風 光学調査報告書』東京文化財研究所、2015 年)、「豊臣秀吉の吉野の花見と吉野花見図屏風」(『聚美』11 号、2014 年)、「土佐光吉宛平家繪制作関連書状の再検討 —狩野光信研究の視点から」(『國華』1362 号、2009 年)

教授 藤沢 桜子 [西洋美術史]

専門分野及び研究紹介

古代ギリシア・ローマ美術史。ギリシア・ローマ神話の美術表現。幕末明治期日伊文化交流。最近では、西洋では、古代の美術が社会でどのような役割を果たしていたのか、また神話美術がルネサンス時代など後世においてどのように受容されたのか、また日本では、古代ローマ文明が明治初期にどのように受けとめられていたのかについて関心を持っています。

著書・論文等

共著『イタリアの世界文化遺産を歩く』藤本強・青柳正規編(同成社、2013 年)(担当「ポンペイ、エルコラーノ及びトッレ・アヌンツィアータの遺跡地域」、共著『西洋美術館』(小学館、1999 年)、論文「『米欧回覧実記』「羅馬府ノ記」と古代ローマ」(『イタリア学会誌』63 号 2013 年)、「『イカリオスの浮彫り』古代受容に関する一考察：ジュリオ・ロマーノによる応用」(『群馬県立女子大学紀要』34 号、2013 年)、「『米欧回覧実記』に描かれたポンペイ」(同 31 号、2010 年)、「ポンペイの壁画に見る主題の統一性」(『美術史』156 冊 2004 年) 等

准教授 大野 陽子 [西洋美術史]

専門分野及び研究紹介

イタリア美術史。16-17 世紀のイタリア北部のキリスト教美術を中心に研究しています。特に、宗教的イメージが制作当時の社会、文化の中でどのように機能していたのかに注目しています。

著書・論文等

「『奇蹟』を想起させる絵画—チェラーノ作《サンタ・マリア・プレッソ・サン・チェルソの聖母像の前で祈るアッシジの聖フランチェスコと福者カルロ・ボッロメオ》」『民族芸術』vol. 35、2019 年、共著『視覚のイコノグラフィア』ありな書房、2015 年、共著『聴覚のイコノグラフィア』ありな書房、2013 年、単著『ヴァラッロのサクロ・モンテ』三元社、2008 年、「ヴァラッロのサクロ・モンテ第 36 礼拝堂〈カルヴァリオへの道〉—予型論像と「キリストのまねび」の可視化」(『美術史』163 冊 2007 年)、等

准教授 奥西 麻由子 [アートマネジメント]

専門分野及び研究紹介

アートマネジメント、美術教育。様々な人たちがアートに親しむためのきっかけを日々考え、実践しています。主にワークショップやアートプロジェクトの企画運営などを通して、現代社会において芸術・文化がどうあるべきか、アートの役割や機能、存在のあり方を模索しています。

著書・論文等

「大学生の芸術祭参加の可能性～『中之条ビエンナーレ』における実践を通して～」『美術教育学研究』第50号、2018、「コロナ禍における群馬県内の美術館連携事業の実践に関する報告」（『群馬県立女子大学紀要』第43号、2022年）等

教授 山崎 真一 [絵画]

専門分野及び研究紹介

絵画やインスタレーションなど幅広い創作活動をしています。商業施設の天井画や壁画、街や島での作品展示、病院におけるワークショップなど地域社会と直接かかわり、美術と社会のつながりを実践研究しています。

著書・論文等

「びょういんにおいでよ、わたしたちの！」（『美術教育研究会』No.12 2006年）、医療・ケア現場での実践活動（『GPnet』2008年6月号）など多数 パブリック：晴海トリトンスクエア「神話の広場」天井画、大崎ゲートシティ「アトリウム」壁画／天井画、HYATT REGENCY FUKUOKA など多数 個展・グループ展：桐生再演、越後妻有アートトリエンナーレ、奥能登国際芸術祭 2017、2020+、瀬戸内国際芸術祭 2013、UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川 2021、2022、2023 など多数

教授 高橋 綾 [デザイン]

専門分野及び研究紹介

デザインを幅広く制作研究していますが、主に立体造形の「玩具」「あそび」をテーマに研究開発しています。さらに、研究発表（作品展示）やワークショップ、商品開発などの実践研究も行っています。

論文・著書等

共著「伊香保アートプロジェクト」（『アートプロジェクトエッジ』東方出版 2015年）、共著「あかりアートプロジェクトの実践」（『環境芸術学会学会誌』2008年）など。

受賞歴：第5回神戸ビエンナーレ創作玩具国際コンペティション大賞（2015年）、第1回スギ・ヒノキの創作玩具コンペティショングランプリ（2013年）、環境芸術学会奨励賞（2013年）ほか多数。

個展：『高橋綾のあそぶデザイン展』八ヶ岳美術館（2016年、2018年）おかざき世界子ども美術博物館（2019年）など多数。

企画展：『つみき 展』浜田市世界こども美術館（2020年）、『樋口雄一とアーティストたちのロボット展』オリエアート・ギャラリー（2021年）

複合文化専攻の特色と研究指導・授業科目

1 本専攻の特色

複合文化専攻は、「文化」「社会」「情報メディア」を3つの柱として、混迷する現代を生きる上でわたしたちが必要とする「実践知」を獲得すべく構成されています。本専攻における大学院生は、社会、文化、メディア、情報などの各分野、あるいは複数の分野にまたがる複合的テーマについて、教員の指導のもとで有機的に履修することができます。その独自の研究を通して、諸分野統合的で高度な教養を涵養し、研究者や幅広い分野で活躍できる人材を育てることを目標としています。

具体的には、まず中核となる「基礎研究」によって基本的な研究方法を修得します。そのうえで社会の諸問題や文化的事象をさまざまな方法論を用いて分析する方法、さらには、メディアや情報の文化的および技術的な側面を考察する理論について学ぶことで、複雑化した現代社会における諸問題を複合的な視点で深く追求するスキルを身につけます。そして、これらの研究から得られた成果を積極的に外部世界に向かって表現・発信します。

上記の3つの柱はあくまでも概念・理念型であって、大学院生の学問的関心を束縛するものではなく、本専攻はむしろ大学院生自身の学問的関心を最大限に生かす研究ができるようにサポートします。

実際の授業科目としては、本専攻の特色を生かすための「研究」「演習」のほか、実際の文化の現場を経験することを主目的とする「複合文化研究法」を置いています。これは各分野の専門的研究を深めるために、研究室での研究だけではなく、必要に応じて学外に飛び出して経験することで生きた知識を身につけることを目標としています。

修士課程での最大の課題は修士論文の執筆、またはそれに代わる課題研究の完成です。本専攻では、大学院生ひとりひとりの個性を生かし、独立した研究者として各自の問題関心に基づいた研究の仕上げを修士論文、あるいはリサーチレポートとして完成させることができるように、複数の教員によるしっかりとした指導体制を構築しています。

受験生へのメッセージ

本専攻で学びたい学生には次のようなことを求めます。まず、社会事象、文化事象、情報メディアの文化的または数理的な側面に関する具体的な関心を有していることです。その上で自分の課題や問題関心についてある程度の専門的知識を修得していることを望みます。そして各自の専門的知識を深めることで、その成果を世界に向かって発信し、世界に貢献したいという願望をもっている学生を求めます。

2 指導教員及び授業科目

□ 指導教員

- 一階 千絵
- 歸山 亜紀
- 鈴木 親彦
- 黒田 覚
- 山崎 隆広

□ 授業科目

社会環境研究	文献（現代社会論）の講読と議論を通じて、現代社会の特徴を捉え、考察する。 また、これを素材として現代社会の諸問題を考察し、議論する。 (歸山准教授)
社会環境演習 1	社会学分野の文献を講読・討論することを通じて、社会学理論を身につける。 (歸山准教授)
社会環境演習 2	経験社会学分野の論文を講読・討論することを通じて、学問において経験的であることの意義を考える。 (歸山准教授)
スポーツ文化研究	スポーツ人類学、スポーツを対象とした歴史民族学を中心とした論文集を輪読し講義や討論を行う。 (一階准教授)
スポーツ文化演習 1	スポーツ人類学についての古典的著作を輪読し講義や討論を行う。 (一階准教授)
スポーツ文化演習 2	スポーツ人類学についての先端的な著作を輪読し講義や討論を行う。 (一階准教授)
文化と資料研究	Digital Humanities に関して、文献講読を中心に世界的な研究動向を学び、自身の人文学研究に活かす方法を身に着ける (鈴木准教授)
文化と資料演習 1	Digital Humanities の考え方をを用いて人文学の資料を扱い、既存の人文知に新たな成果を付け加えていくことを学ぶ (鈴木准教授)
文化と資料演習 2	Digital Humanities の考え方をを用いて人文学の資料を扱い、既存の人文知に新たな成果を付け加えていくことを学ぶ (鈴木准教授)
思考と論理研究	論理に関する基礎的な事柄を学ぶ (黒田教授)
思考と論理演習 1	形式論理学の入門として形式的体系とその意味についての文献講読を行う (黒田教授)
思考と論理演習 2	数理論理学を計算機科学に応用する方法を文献講読を通じて身に付ける (黒田教授)
情報と人間研究	情報メディアを記号の織物として読み解く情報記号論や文化社会学の基礎を学ぶ (山崎(隆)教授)
情報と人間演習 1	近現代のメディア社会成立の背景をグローバリゼーション、対抗文化の問題系から考察する (山崎(隆)教授)
情報と人間演習 2	メディア、文化、社会といった概念の構築の背景について、文献講読を通じて考える (山崎(隆)教授)
基礎研究	複合文化研究の最も基本的な方法論を学び、各自の専門分野研究の基礎を修得する (専任教員)
個別研究指導	各自の研究課題をより明確化し、その研究のための方法論を身に付け、各自の研究課題に取り組む (専任教員)

3 専任教員の研究分野

准教授 一階 千絵 [スポーツ人類学・スポーツ文化]

専門分野及び研究紹介

民族・伝統スポーツ（特定の民族あるいは地域に古くから伝わり、これを行う人々の伝統的文化に深く根ざしたスポーツ）、ならびにそれらを育む身体文化について研究する、スポーツ人類学を専攻しています。特に、女性の行う格闘技の歴史やその様相に注目しています。具体的には、日本の女相撲等を事例として、女性の身体やスポーツ、特に格闘技に対するまなざしや語りを、ジェンダー規範との関わり等から考察しています。

著書・論文等

「女子の体育教材としての格闘技をめぐる言説についての考察—1920年代の体育書の記述に着目して—」（『群馬県立女子大学紀要』第44号、2023年）、「民族スポーツにおける女子格闘技の競技化について—「アウトゲーム」を事例として—」（寒川恒夫研究室編『スポーツ人類学の世界～早稲田の窓から～』虹色社、2019年）、「栗津實『アウトゲームの栞：女子新體育技』における相撲競技改変の試み」（『群馬県立女子大学紀要』第37号、2016年）、「女相撲と女力士の身体表象」（瀬戸邦弘・杉山千鶴編『近代日本の身体表象』森話社、2013年）

准教授 歸山 亜紀 [社会学・社会調査の方法]

専門分野及び研究紹介

専門は社会学です。社会学が担う仕事は、社会的事実を明らかにしたり、また、さまざまに生起する社会問題への対応と解決策を考えたりすることです。研究スタイルは、計量社会学です。計量社会学とは、数量化されたデータを用いて、社会的な問いに経験的に答えようとするアプローチのことです。たとえば日本社会が全体的にどのように変化してきたのか、現在の日本社会がどのような状態なのかを知るためには日本全体を網羅した数量的データが適しています。この計量社会学の方法を用いて、社会の姿を描き、そこで生活する人びとを理解することをおこなっています。また、この計量社会学で用いるデータをいかにして適切に集めるかを考える社会調査方法論についても研究しています。

著書・論文等

轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法：2ステップで基礎から学ぶ（第4版）』、法律文化社、（分担執筆）、2021年3月。
歸山亜紀、「がん患者の語りからみる終末期の経験：闘病ブログの分析から」、『群馬県立女子大学紀要』43: 61-71頁、2022年2月。
歸山亜紀・鳶島修治、「職場における自律性が仕事の満足度に与える影響：前橋市・玉村町住民サーベイの分析から」、『群馬県立女子大学紀要』40: 53-64頁、2019年2月。
歸山亜紀・小林大祐・平沢和司、「コンピュータ支援調査におけるモード効果の検証：実験的デザインにもとづくPAPI、CAPI、CASIの比較」、『理論と方法』30(2)号、数理社会学会、273-92頁、2015年11月。
轟亮・歸山亜紀、「予備調査としてのインターネット調査の可能性：変数間関連に注目して」、『社会と調査』第12号、社会調査協会、46-61頁、2014年3月。

准教授 鈴木 親彦 [文化資源学]

専門分野及び研究紹介

文化資源学および人文情報学を研究しています。研究対象が文化資源、研究方法が人文情報学と分類することも可能です。デジタル化され公開されている様々な人文学資料から、都市や地域に関わる情報を抽出し再編成することで、文化資源を活用可能にする研究を進めています。現在は国際的な画像共有規格であるIIIF（International Image Interoperability Framework）を軸に、地域の資料と時空間情報を結び付け、情報空間に江戸時代の都市・名所を再構築することを試みています。同時に、人文学資料そのものについて、デジタル化を進め、よりオープンに利用できるようにするための環境を研究しています。

著書・論文等

『オックスフォード 出版の事典』（共訳、丸善出版2023年）、『デジタル時代のアーカイブ系譜学』（共著、みすず書房2022年）、”Geographic analysis of published guidebooks and personal diaries on

the diversity of city image in the Edo period” (*Digital Humanities 2022* pp.578-579 2022 年)、「人文学資料マイクロコンテンツの実世界との双方向結合とデータポータル「edomi」(『じんもんこん 2021 論文集』 pp.96-103 2021 年)、“Style Comparative study of Japanese medieval picture scrolls focusing on landscapes using GM Method with IIIF Curation Platform” (*JADH2021* pp.16-21 2021 年)、「地理的史料を対象とした歴史地名の構造化と統合に基づく江戸ビッグデータの構築」(『じんもんこん 2020 論文集』 pp.171-178 2020 年)、「日本中世絵巻における性差の描き分け—IIIF Curation Platform を活用した GM 法による『遊行上人縁起絵巻』の様式分析」(『じんもんこん 2020 論文集』 pp.67-74 2020 年)、“Analysis of difference between male and female facial expressions in Japanese picture scrolls using GM Method with IIIF Curation Platform” (*Japanese Association for Digital Humanities 2020* pp.90-95 2020 年)、「出版を巡る流通と文化 文化資源学の視座による取次を軸とした出版流通分析」(博士論文、2020 年)、『欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識』(文学通信 2021 年)、『デジタルアーカイブベーシックス 2 災害記録を未来に活かす』(勉誠出版 2019 年)

教授 黒田 覚 [数理論理学・論理と思考]

専門分野及び研究紹介

数理論理学を専攻しています。特に、限定算術と呼ばれる弱い算術体系と計算量理論の関係についての研究が中心です。この分野では計算量理論の重要な問題である $P \neq NP$ などの解決に対するアプローチとして、ある計算量クラスに対応する算術体系を定義し、それらの証明能力を測ることをおこないます。とくに多項式時間計算可能なクラスとその部分クラスに対しては、様々な数学の定理がどの体系で証明可能かを調べる限定逆数学とよばれるプログラムが提唱されており、これにより数学の定理に新たな視点をあてることもこの研究の重要な役割になっています。

著書・論文等

Generalized Quantifier and a Bounded Arithmetic theory for LOGCFL (Archive for Mathematical Logic, vol. 46, 2007)、限定算術と計算量理論の最近の話題 (日本数学会『数学』, 60 巻, 2008)、Complete Problems and Bounded Arithmetic for LOGCFL (Proceedings of Logical Approaches to Barriers in Computing and Complexity, 2010)、Axiomatizing proof tree concepts in Bounded Arithmetic (Proceedings of Computer Science Logic 2012)、Sprague-Grundy theory in bounded arithmetic. (Arch. Math. Logic 61, 233-262, 2022)、Takeuti-Yasumoto Forcing Revisited, Computability Theory and Foundations of Mathematics, Proceedings of the 9th International Conference on Computability Theory and Foundations of Mathematics, Wuhan China, World Scientific, pp. 123-155 (2022)

教授 山崎 隆広 [メディア論・情報と人間]

専門分野及び研究紹介

メディアと文化、社会の関わりを研究するメディア論を専攻しています。現在は主に 3 つの対象を研究の柱としています。まず、社会や技術の変容と我々の言説環境や読書環境の変容の相関について考察する、広く出版を対象としたメディア研究。2 つ目は映画やテレビなどの映像を記号学の視点から読み解く映像記号分析。そして、主にマスメディア以外の新しいメディア環境が社会においてどのような影響をもたらしていくのかを、実際にフィールドワークをしながら分析、考察していくオルタナティブメディア研究です。

著書・論文等

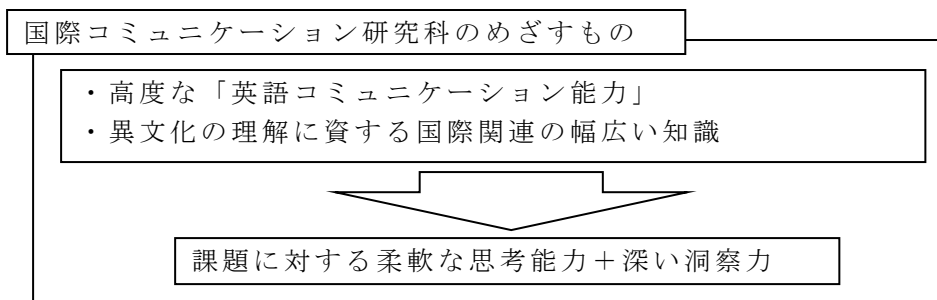
A. Phillips, M. Bhaskar 編『オックスフォード 出版の事典』(監訳、丸善出版、2023 年 2 月)、「出版研究における〈他者〉言説をめぐる先行研究の整理」(『群馬県立女子大学紀要』第 43 号、2022 年 2 月)、「雑誌の中の〈基地〉表象——1970 年前後のメディア状況からの考察——」(『群馬県立女子大学紀要』第 42 号、2021 年 2 月)、「第 7 次『郡上村』調査からみる農山村と地域コミュニケーション」(東京経済大学紀要『コミュニケーション科学』第 53 号、2021 年 2 月、共著)、「出版研究における〈場〉の理論導入の可能性——ブルデュー『芸術の規則』を手がかりに——」(『群馬県立女子大学紀要』第 41 号、2020 年 2 月)、「成長と運動の時代における他者の変容——オルタナティブなメディアはなぜ 1970 年前後に生じたか——」(『群馬県立女子大学紀要』第 40 号、2019 年 2 月)、「雑誌と〈敗北〉—

—『試行』と『ニューミュージック・マガジン』、サブカルチャーの中のイロニー——」（『群馬県立女子大学紀要』第39号、2018年2月）、「ポピュラー音楽と〈情況〉——『ニューミュージック・マガジン』から『ミュージック・マガジン』へ——」（吉田則昭＝編『雑誌メディアの文化史 [増補版]』森話社、2017年4月）、「(翻訳) ブライアン・スタンリー・ターナー著「ニューメディアと浮遊する宗教」（石田英敬／吉見俊哉／マイク・フェザーストーン＝編『デジタル・スタディーズ』東京大学出版会、2015年9月）等

群馬県立女子大学大学院国際コミュニケーション研究科の案内

□大学院国際コミュニケーション研究科の目的

国際コミュニケーション研究科では、高度な英語コミュニケーション能力の向上及び異文化の理解に資するとともに、国際関連の幅広い知識を身に付けることにより、グローバル化が急速に進展する国際社会において活躍し、様々な課題に対する柔軟な思考能力及び深い洞察力を兼ね備えた人材を育成することを目的としています。なお、本研究科は男女共学です。



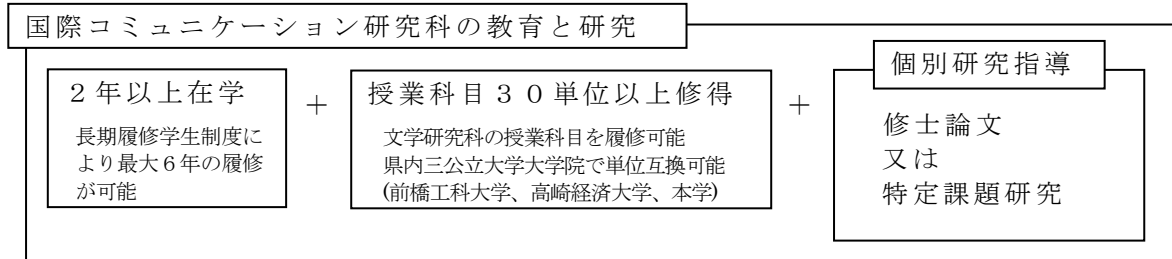
□概要

本研究科の教育と研究は、2年以上在学し、授業科目30単位以上の修得、個別の研究指導による修士論文の執筆または特定課題研究報告書の作成を中心に行われます。

また、本学大学院では、文学研究科の専攻の授業科目も履修できるようになっており、学生が指導教員の下で既存の学問の枠組みにこだわることなく斬新な視点と清新なる発想とによって知見を拡大し、新たな学際的な課題に意欲的に取り組むことが可能です。

さらに、他大学院との単位互換や共同研究、学生交流なども進めており、教育・研究における協力関係の構築や国際的な発展も視野に入れています。平成15年度からは県内の三つの公立大学（前橋工科大学（工学系）、高崎経済大学（社会科学系）、本学（人文科学系））が教育・研究の分野で相互協力を進め、国際水準の大学を目指して連携し、三大学の大学院間での単位互換制度が実施されています。この制度の利用によって、本研究科の枠を超えた視野の拡大や研究に新たな展望を模索することもできます。

職業に就いている等の事情により、2年を超えて一定期間にわたり計画的に教育課程を履修して修了することを希望する学生は、「長期履修学生制度」を利用して、最長6年間の履修が可能です。



□特色

国際コミュニケーション研究科では、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養を持ち、グローバル化に対応できる国際感覚と英語のコミュニケーション能力を備えた高度な教養人を養成します。また、高度なコミュニケーション能力や多様な国際ビジネス関連知識を備え、国際社会において即戦力として活躍できるリーダーを育成します。地域貢献の視点から企業推薦入学試験を実施し、県内海外進出企業の幹部候補者等も社会人学生として受け入れ、高度な英語コミュニケーション能力と異文化知識を身に付けた職業人を養成します。

そのために、本研究科ではより高度な英語コミュニケーション能力を身に付けるための英語コミュニケーション分野を中心にして、さらに国際化社会に対応するための能力を育成する学問分野も研究対象とします。

具体的に養成する人材としては、国際語としての英語を広くかつ深く研究し、現代の国際社会における異文化間

□研究指導

○授業科目

(英語コミュニケーション科目)

英語コミュニケーション科目は、国際語としての英語を広くかつ深く研究し、現代の国際社会における異文化間コミュニケーションに関わる諸課題に対応できるようなコミュニケーション能力を養成することを目的として設定されています。コミュニケーションに係る科目として「英語コミュニケーション研究」、英語学・言語学に係る科目として「英語学研究」、「応用言語学研究」を開講し、国際語である英語をコミュニケーションと英語学・言語学という2つの側面から研究することを可能としています。

英語コミュニケーション研究Ⅰ	Introduction to Meaning in Language	(細井教授)
英語コミュニケーション研究Ⅱ	Communicative/Pedagogical Grammar of English	(深谷教授)
英語コミュニケーション研究Ⅲ	Pragmatics for English Education and Communication	(吉村准教授)
英語コミュニケーション研究Ⅳ	Communicative English Pronunciation	(小笠原教授)
英語学研究Ⅰ	Introduction to Linguistics	(吉村准教授)
英語学研究Ⅱ	English Semantics	(細井教授)
英語学研究Ⅲ	English Syntax	(深谷教授)
英語学研究Ⅳ	English Phonetics & Phonology	(小笠原教授)
応用言語学研究Ⅰ	Introduction to Language Acquisition	(梅田准教授)
応用言語学研究Ⅱ	Introduction to Second Language Acquisition	(スナイプ教授)
応用言語学研究Ⅲ	Applied Second Language Acquisition	(スナイプ教授)
応用言語学研究Ⅳ	Individual Differences in Second Language Acquisition	(神谷教授)
応用言語学研究Ⅴ	Acquisition of English by Japanese Speakers	(梅田准教授)
応用言語学研究Ⅵ	Reflective Teaching Practices	(神谷教授)
English CommunicationⅠ	Brushing Up English Communication Skills	(未定)
English CommunicationⅡ	Brushing Up English Communication Skills	(未定)

○指導教員

細井 洋伸	[言語学：意味論／統語論]
深谷 晃彦	[言語学：統語論]
小笠原 奈保美	[言語学：音声学／音韻論／心理言語学]
ニール スナイプ	[応用言語学：第二言語習得論]
神谷 信廣	[第二言語学／英語教育学]
梅田 真理	[言語学：第二言語習得]
吉村 敬子	[言語学：意味論／語用論]

(国際ビジネス科目)

国際ビジネス科目は、多様な国際ビジネス関連知識を備え、異文化を理解することに資すると共に、国際社会において即戦力として活躍できる能力を養成することを目的として設定されており、経済学分野・経営学分野・政治学分野・情報学分野など社会科学系の領域から構成されています。

経済学分野では「国際経済学研究」「開発経済学研究」、経営学分野では「国際経営学研究」「人的資源管理研究」、政治学分野では「国際関係研究」、情報学分野では「情報メディア研究」などを開講しています。これらの科目は、国際ビジネスに関連する主要な分野をカバーしています。

国際経済学研究Ⅰ	国際的な経済政策について学びます	(原谷准教授)
国際経済学研究Ⅱ	国際的な経済理論について学びます	(原谷准教授)
開発経済学研究Ⅰ	開発途上国の経済発展・開発について考えます	(布田准教授)
開発経済学研究Ⅱ	アジアなどの開発途上国における貧困問題について考えます	(布田准教授)
国際経営学研究Ⅰ	経営のグローバル化と日本企業の海外戦略について考察します	(于教授)
国際経営学研究Ⅱ	グローバル戦略とサプライチェーン・マネージメントを中心に考察します	(于教授)
国際関係研究Ⅰ	国際関係の主要理論について原典を読んで理解します	(野口教授)
国際関係研究Ⅱ	国際関係のアプローチや方法論について考えます	(野口教授)
人的資源管理研究Ⅰ	企業における人的資源管理とメンタルヘルス問題などの今日的なトピックスについて学びます	(日詰教授)
人的資源管理研究Ⅱ	組織で働く人材の心理と行動に関する主要概念と心理測定の手法について学びます	(日詰教授)
情報メディア研究Ⅰ	現代社会の諸問題について情報システムの視点から考察します	(甲村教授)
情報メディア研究Ⅱ	プログラミング言語の概念と実技を学びます	(甲村教授)

○指導教員

于 蘭鳳	[国際経営学／流通物流論]
野口 和彦	[国際関係学／安全保障研究]
甲村 美帆	[認知情報論]
布田 朝子	[開発経済学／開発研究]
原谷 直樹	[国際経済学／経済学史]
日詰 慎一郎	[人的資源管理論／組織行動論／キャリア発達論]

□専任教員の研究分野

(英語コミュニケーション科目)

教授 細井 洋伸 [言語学：意味論／統語論]

(専門分野及び研究紹介)

以前から統語論と意味論の関係に興味を持っていましたが、最近では意味論のほうにより関心があります。これまでは、英語の句動詞構文、日本語の複合動詞構文、英語の関係代名詞、日本語の主要部内在型関係節などを研究してきました。最近では、英語と日本語の複数形の意味の違いや遊離数量詞の意味に関して研究をしています。日本語と英語の外面的な違いが、意味とどのように関連しているのかを中心テーマにおいて研究しています。

(著書・論文等)

“Mixed Predicates” are, in fact, Atom Predicates. (*Proceedings of the 36th Penn Linguistics Colloquium, University of Pennsylvania Working Papers in Linguistics* 19:1, Article 9. Available at: <http://repository.upenn.edu/pwpl/vol19/iss1/9>. 2013), Set/Atom Predicate Distinction and Its Impact on Japanese Floating Quantifiers. (*The 2010 Seoul International Conference on Linguistics: Universal Grammar and Individual Languages*. Hankookmunhwasa, Korea, 12 pages in CD-ROM, 2010), Japanese -*tachi* plurals (*Proceedings of the Berkeley Linguistics Society* 31, 2006), Internally Headed Constructions in Japanese: A Unified Approach. (McGill University Dissertation, 2004), Adjunct Control Verbs (*Linguistics in the Morning Calm 4: Selected papers from SICOL '97*, 1999)

教授 深谷 晃彦 [言語学：統語論]

(専門分野及び研究紹介)

ひとは生得的な「ことばのもと」を持って生まれてくるとする生成文法の立場から、英語と日本語の統語現象(文法)を研究しています。最近では特に、英語と日本語における省略現象に関心を持っています。ことばによるコミュニケーションは、主として音声と意味の対応関係を基盤として成り立っていますが、一方の音声は欠けているにもかかわらず、もう一方の意味が解釈できるという点で、省略現象は大変興味深い現象です。省略現象の中でもとりわけ、数多くの言語において観察される、間接疑問文の省略や文の断片に関わる現象を中心に研究しています。

(著書・論文等)

“Japanese” (in J. van Craenenbroeck and T. Temmerman (eds.), *The Oxford Handbook of Ellipsis*, Oxford University Press, 2019), “Island-Sensitivity in Japanese Sluicing and Some Implications” (in J. Merchant and A. Simpson (eds.), *Sluicing: Cross-Linguistic Perspectives*, Oxford University Press, 2012), *Sluicing and Stripping in Japanese and Some Implications* (Ph.D. dissertation, University of Southern California, 2007), “Island (In)sensitivity in Japanese Sluicing and Stripping and Some Implications” (in *Proceedings of the 22nd West Coast Conference on Formal Linguistics*, 2003), “Stripping and Sluicing in Japanese and Some Implications” (with Hajime Hoji, in *Proceedings of the 18th West Coast Conference on Formal Linguistics*, 1999)

教授 小笠原 奈保美 [言語学：音声学／音韻論／心理言語学]

(専門分野及び研究紹介)

音声学・音韻論全般が専門です。特に、発話された音声の音響的特徴や音声を聞き取ってから言語として認識する心理プロセスにフォーカスした音声知覚に興味があります。最近では、自然災害発生時の避難呼びかけの声の高さや発話速度、また、言葉の使い方や災害情報の種類などが聞き手の避難行動にどのような影響を与えるかについて研究することで、言語学・音声学を防災に役立てようと試みています。

(著書・論文等)

小笠原・大藤 (2017). 「水害・土砂災害避難伝達文の言語学的分析」*災害情報* 15(1), 17-27. Ogasawara, N., Ofuji, K., & Harada, A. (2016). Appropriateness of acoustic characteristics on perception of disaster warnings. *The 5th Joint Meeting Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan, ASA Press Room Archives* <http://acoustics.org/appropriateness-of-acoustic-characteristics-on-perception-of-disaster-warnings-naomi-ogasawara/>.

小笠原・大藤 (2016). 「避難呼びかけ文をどう発話したら効果的か～発話の音響的特徴の影響～」*日本災害*

情報学会第18回学会大会予稿集, 226-227. Ogasawara, N. (2015). Analysis of Japanese pitch accent in L1 and L2 speech. *Concentric: Studies in Linguistics*, 41(2), 63-89. Ogasawara, N. & Ginsburg, J. (2015). Linguistic Analysis of Japanese tsunami evacuation calls. *Proceedings of the 2nd International Conference of Information and Communication Technologies for Disaster Management*, 173-177. Ogasawara, N. (2013). Lexical representation of Japanese vowel devoicing. *Language and Speech*, 65(1). 5-22.

教授 ニール スナイプ [応用言語学：第二言語習得]

(専門分野及び研究紹介)

私の研究は、第二言語習得、特に日本人とスペイン人英語学習者の、英語の名詞にかかわる習得についてです。例えば、日本人の英語学習者が、どのようにして英語の冠詞を習得していくのかということに興味があります。最近の研究は、英語学習者は冠詞のためのパラメーターを設定しなければいけないと一般的に主張しています。私は、自分の最近の研究において、日本人、中国人、トルコ人、スペイン人らが冠詞の総称的用法をどのように習得するのかを見ています。具体的には、第二言語学習者は英語において、(1) 総称的な概念がどの様に表されるかを理解しているか、(2) 定性で表される総称性と数で表される総称性の区別ができるのか、といった問題を研究しています。

(著書・論文等)

(with T. Kupisch). Ultimate attainment of second language articles: A case-study of an endstate second language Turkish – English speaker. *Second Language Research*, 26(4): 527-48, (2010). Exploring Mandarin Chinese speakers' article use. In N. Snape, Y.-k. I. Leung and M. Sharwood Smith (eds.), *Representational Deficits in SLA: Studies in Honor of Roger Hawkins*. (pp. 27-51). Amsterdam: John Benjamins, (2009). Resetting the Nominal Mapping Parameter: definite article use and the count – mass distinction in L2 English. *Bilingualism: Language and Cognition* 11 (1): 63-79, (2008).

教授 神谷 信廣 [第二言語学／英語教育学]

(専門分野及び研究紹介)

第二言語の習得、学習、教授の分野の中でも、特に日本の英語教育との関わりが深い項目に幅広く興味があり、実際の授業を主な研究対象としています。具体的にはフォーカス・オン・フォーム、非言語的情報（ジェスチャー等）等が挙げられます。

(著書・論文等)

著書 Kamiya, N. (2017). 話す活動と文法指導－フィードバック. In 鈴木 渉 (編), *実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導* (pp. 45-62). 東京, 日本: 大修館書店. 他

論文 Kamiya, N. (2021). What characteristics of recasts facilitate accurate perception when overheard by true beginners? *Language Teaching Research*. 他

准教授 梅田 真理 [言語学：第二言語習得]

(専門分野及び研究紹介)

生成文法理論に基づいた第二言語習得研究に興味をもっています。第二言語習得研究の中でも主に形態素と文法の習得に関心があり、初級レベルから母語話者に近いレベルの学習者を対象に第二言語学習者の言語知識の発達と習得可能性を研究しています。具体的には、日本語と英語の Wh 疑問文や複数形の習得などを調査しています。

(著書・論文等)

Past tense morphology in Chinese-Japanese interlanguage: evidence for prosodic transfer (*Second Language* 11, (2011), Yoko Isse との共著), *Second Language Acquisition of Japanese Wh-constructions* (PhD. Dissertation, McGill University, 2008), Wh-scope marking in English-Japanese interlanguage (*Proceedings of Generative Approaches to Language Acquisition North America* 2, 2007), Intervention effects in L2 grammars: Full Access at the syntax-semantics interface (*Proceedings of the 31th annual Boston University Conference on Language*, 2007),

Wh-movement in L2 grammars: Evidence for parameter resetting (*Proceedings of Generative Approaches to Language Acquisition North America 1*, 2006), Wh-movement in Japanese-English interlanguage: evidence from scope and reconstruction (*Proceedings of the 29th annual Boston University Conference on Language Development*, 2005)

准教授 吉村 敬子 [言語学：意味論／語用論]

(専門分野及び研究紹介)

主に形式意味論と統語そして語用との接点に興味があります。ことばの形と意味の関係、そしてその使い方における言語現象を研究の対象にしています。とくに、英語の *any* や *either* などを中心として知られる極性表現に興味があり、日本語を含め、ほかの言語の極性表現などと比較しながら、その分布制限や意味解釈の制限などに関して研究しています。また、それに関連して、取り立てや慣習の含意などにも関心があります。

(著書・論文等)

Complexity of Polarity Sensitivity: Japanese –demo. 『岐阜聖徳学園大学紀要〈外国語学部編〉』第48集、46-60頁、(2009). What does ONLY assert and entail? *Lodz Papers in Pragmatics*, Volume 3, pp. 97-117, (2008). *Focus and Polarity: Japanese EVEN and ONLY*, Ph.D. dissertation, University of Chicago, (2007). The Semantics of Focus Particle –shika ‘only’ in Japanese. *Proceedings of Western Conference on Linguistics (WECOL)*, vol.17, pp. 499-512, (2006). Scope theory vs. Polarity theory: analysis of Japanese focus particle –sae. *The Papers from the 40th Annual Meeting of Chicago Linguistic Society: Main Session (CLS40)*, pp. 427-442, (2004).

(国際ビジネス科目)

教授 于 蘭鳳 [国際経営学／流通物流論]

(専門分野及び研究紹介)

市場・生産拠点の両面から注目されている中国での流通・物流合理化、近代化をめぐる諸問題、日系中国進出企業におけるサプライチェーン・マネジメント問題に関心を持ち、考察しています。また、日本経済における流通合理化対策及び中国にとっての示唆にも関心があります。

(著書・論文等)

“Financial Consolidation and Risk Dispersion Effect: Evidence from the Japanese Financial Sector”, *International Journal of Business and Management Studies*, vol. 1 (2012), pp13-19.

“Study on Private Brand Strategy in Distribution Industry: Recent Developments in Western Countries and Japan”, *International Conference on Engineering and Business Management*, Vol. 2 (2012), pp871-875, Scientific Research Publishing, USA.

“Logistics Problems of Procurement in China: The Case of Japanese Retailing Industry Procuring Private Label Products” 日本物流学会誌 第19号(2011), pp.17-24.

“Logistics Barriers to International Operations: A Case Study of Japanese Firms in China”, *2011 International Conference on Economics and Finance Research Proceedings*, Feb. 2011, pp.384-388.

“Major Issues in Supply Chain Management for International Firms in China”, *RKU Logistics Review*, No.46, Jan. 2006, pp.1-15.

教授 野口 和彦 [国際関係学／安全保障研究]

(専門分野及び研究紹介)

国際関係の理論と方法論、安全保障研究、戦略論、アジア太平洋の国際関係を専門にしています。具体的には、パワー分布の変化が国家間関係に与える影響、戦争を引き起こす原因について、定性的アプローチ(事例研究ほか)に基づき研究しています。また、中国の安全保障政策に着目しながら、北東アジアの安全保障や日米中関係の分析も行っています。

(著書・論文等)

単著『パワー・シフトと戦争—東アジアの安全保障—』東海大学出版会、2010年。

編著『国際関係理論(第2版)』勁草書房、2015年ほか。

共著『膨張する中国の対外関係』勁草書房、2010年ほか。

共訳書『政治学のリサーチ・メソッド』勁草書房、2009年。『国際関係研究へのアプローチ』東京大学出版会、2003年。ほか

論文「国際システムを安定させるものは何か」『国際政治』第203号、2021年。「パワー・トランジションと米中関係」『国際安全保障』2012年3月。“Bringing Realism Back In: Explaining China’s Strategic Behavior,” *Asia-Pacific Review*, December 2011.ほか

教授 甲村 美帆 [認知情報論]

(専門分野及び研究紹介)

人間の情報認知メカニズムを研究しています。日常生活で私たちは、何かを見聞きし、それをもとに考え行動します。この流れを、情報システム、つまり情報の「入力(見聞き)・処理(考える)・出力(行動)」ととらえ、実験やコンピュータ・シミュレーションを通じて考察しています。最近では、日常行動における認知情報処理をテーマに、実験を実施しています。

(著書・論文等)

『認知心理学演習 視覚と記憶』オーム社 2012年、『視空間認知と効率分析』風間書房 2006年、“Discriminating the integrated orientation of line segments and its statistical efficiencies” *Japanese Psychological Research* 48, 233-244 2006

准教授 布田 朝子 [開発経済学／開発研究]

(専門分野及び研究紹介)

開発途上国の経済発展や貧困緩和に関する諸問題について、アジアをフィールドにして考察しています。現在は特に、最貧困層のための金融サービス支援のあり方について研究しています。

(著書・論文等)

「貧困削減と金融包摂」柳田辰雄編著『現代国際協力論』東信堂、2021年、“Examining the Flexibility of Savings Groups with Flexible Loan Arrangements: Myanmar’s Self-Reliance Groups,” *Bulletin of GPWU*, Vol. 42, 2021, pp. 121-132.

准教授 原谷 直樹 [国際経済学／経済学史]

(専門分野及び研究紹介)

現代経済理論の歴史的展開について研究しています。特にグローバリゼーションや規制緩和に関連の深い自由主義的な理論や思想を分析してきました。また近年発展が著しい実験経済学や行動経済学と呼ばれる領域が経済理論や政策にどのような影響を及ぼすかにも注目しています。

(著書・論文等)

「ハイエクの社会科学方法論」(桂木隆夫編『ハイエクを読む』ナカニシヤ出版、2014年)、「新自由主義(ネオリベラリズム)」(佐伯啓思・柴山桂太編『現代社会論のキーワード』ナカニシヤ出版、2009年)

教授 日詰 慎一郎 [人的資源管理論／組織行動論／キャリア発達論]

(専門分野及び研究紹介)

経営学のなかでも組織で働く人材の心理と管理、そしてキャリア開発について主にミクロの視点から研究しています。具体的なテーマは、自律的なプロフェッショナル人材の人的資源管理と協働の実現について研究してきました。また自治体で働く職員のキャリア開発支援について研究してきました。

(著書・論文等)

- ・「自己効力理論によるコンピテンシーの実証研究—地方自治体Aで働く係長のキャリア支援に向けて—」*日本労務学会誌* 7(2) : 31—47, 2005年10月.
- ・「プロフェッショナル組織の倫理風土とソーシャル・キャピタル—経営コンサルタントの職業規範に基づく協調の実現に向けて—」*日本経営学会誌* 16: 16—31, 2006年04月.
- ・山口裕幸編『コンピテンシーとチームマネジメントの心理学』所収 第7章「コンピテンシーとキャリアデザイン」108—127 担当, 朝倉書店, 2009年10月.
- ・「人事制度改革が職場にもたらす変化—自動車部品メーカーA社における「成果主義」導入前後の2時点比較調査—」*金城学院大学論集* 9(1) : 15—28, 2012年09月.
- ・広瀬 伸一監・渡辺 直登監・日詰慎一郎・林 洋一郎・佐野 達訳『人事戦略のためのアセスメント・センター』所収 第1章(1—19), 第3章(43—65), 第9章(225—251) 翻訳担当, 中央経済社, 2014年05月.
- ・「自治体職員の「職務興味」「キャリア志向性」の構造と傾向—自治体向け「キャリア形成支援検査」開発の試み—」*慶應経営論集* 34(1) : 39—60, 2017年01月.

大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例の実施について

本学大学院では、学校、官公庁、企業等に現に在職している方が本学大学院へ入学する場合に、第1年次においては、勤務先には出勤しないで、本学大学院に登校して授業を受け、研究に専念し、修士課程の修了に必要な専門科目30単位のうち24単位以上を修得できる見込みがあり、かつ、第2年次においては、原則として毎週定期的に本学大学院に登校して、授業及び研究指導を受け、修士論文を提出できる見込みのある方が、受験出願時に特例の実施を申し出た場合には、第2年次には勤務先に復帰し、平常の勤務をしつつ、特例により履修することを認めています。第2年次の授業は、勤務先での勤務の態様を考慮し、夜間（18時00分～19時30分）、週末、長期休業期間等も含めて行います。

この特例の詳細は、早めに本学事務局教務係にお問い合わせください。

長期履修学生制度の案内

社会人の様々な学習需要に対応し、大学院が多様で柔軟な学習機会を提供し、社会人の受入れを一層促進するため、平成14年4月30日付けで「大学院設置基準」の一部が改正されました。このことによって、職業に従事したままで大学院での専門分野の研究に取り組みたいが、2年間では修了単位修得のための時間が十分に確保できない等の事情がある方が、長期にわたる教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出た場合には、大学院での長期にわたる教育課程の履修が可能となりました。

本学大学院においては、平成16年4月から長期履修学生の募集を開始しました。職業に就いているなど通常の学生よりも履修や研究指導を受ける時間の確保が困難な事情がある場合、標準修業年限（2年）を超えて計画的な長期（最長6年）の履修が認められています。

この制度は、入学試験を受けて入学を許可された有職者の方で、長期履修学生を希望（申請）し、許可された方が対象者となります。なお、2年間分の授業料のみで履修をすることが可能です。

この制度の詳細は、早めに本学事務局教務係にお問い合わせください。

大学院修学休業制度の案内

大学院修学休業制度により公立学校教員はその身分を保有したまま、大学院にフルタイムで在学して、専修免許状を取得することが可能です。

文学研究科では、この制度を利用して専修免許状（国語・英語・美術）を取得しようとする積極的・意欲的な取り組みを支援します。

大学院修学休業制度の概要などは、次のとおりです。

□大学院修学休業制度の概要

- (1) 公立学校の教員で一種免許状又は特別免許状を所持する方は、任命権者の許可を受ければ、専修免許状を取得するため、1～3年間大学院に在学し、その課程を履修するための休業をすることができます。
- (2) 大学院への派遣研修制度と異なり、教員が自らの意思で、学びたい大学院を選ぶことができます。
- (3) 休業期間中であっても教員としての身分を保有しますが、公立学校での職務には従事しません。
- (4) 休業期間中の給与は支給されません。

□大学院修学休業制度の効果

- (1) 日々の教育活動を通じて培われた問題意識について、大学院での専門的な研究や分析に基づいて理論的・体系的に整理することにより、より高度な実践力を身に付けることができます。
- (2) しばらく学校現場を離れてみることで、自らの教員生活を客観的に見つめ直す機会にすることができます。

□大学院修学休業制度利用中の経済支援

- (1) 独立行政法人日本学生支援機構の奨学金を申請することができます（無利子貸与：月額5万円又は8万8千円、利子貸与：月額5万円、8万円、10万円、13万円、15万円）。
- (2) 公立学校共済組合の貸付を受けることができます（一般貸付：200万円以内、教育貸付：550万円以内）。

★ 大学院修学休業制度の詳細は、文部科学省又は勤務先の都道府県教育委員会へお問い合わせいただくか、文部科学省ウェブページ（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyuugyou/syuugaku.htm）をご覧ください。

障害等により受験上の配慮を必要とする方の出願について

障害（学校教育法施行令第22条の3に該当する程度の身体障害等）を有する等のため、受験上の配慮を必要とする入学志願者は、事前に本学事務局教務係に連絡してください。

<連絡方法>

任意の様式により、氏名、住所、電話番号、志望研究科又は専攻、障害の種類及び程度、その他病状等を明記し、下記の連絡先に郵送（書留速達）してください。

連絡に基づき、必要に応じて個別に相談をします。

<相談時期>

下記の期日までを目安としますが、それ以降でも可能な限り相談に対応します。

【第Ⅰ期】7月28日(金) 【第Ⅱ期】11月24日(金)

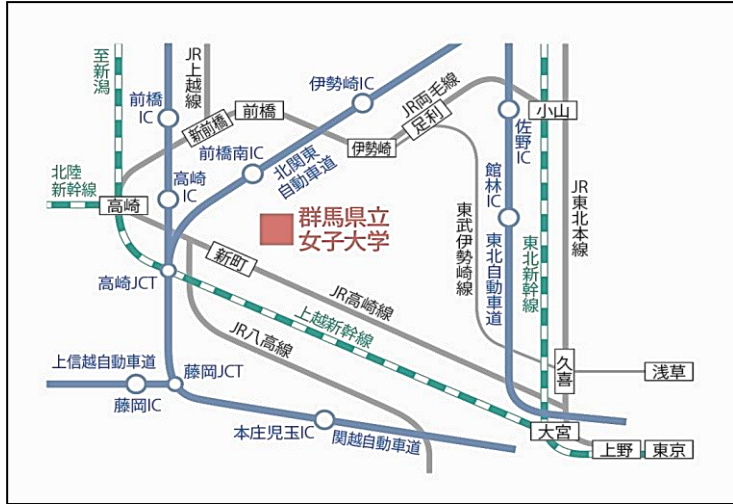
ご質問がある場合には、下記の連絡先までお問い合わせください。

連絡先 〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1
群馬県立女子大学事務局教務係
電話 0270-65-8511

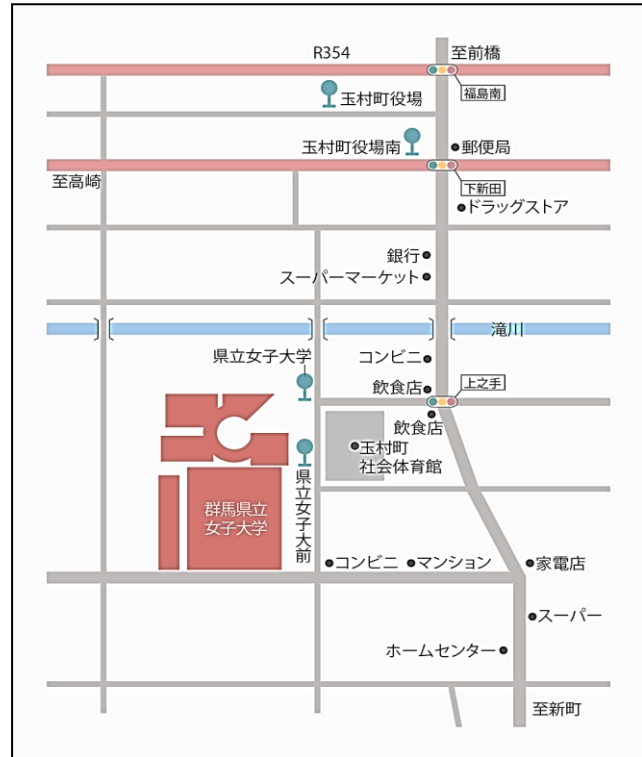
<試験場>

群馬県立女子大学

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1 TEL:0270-65-8511 FAX:0270-65-9538



【周辺地図】



JR最寄り駅からの交通機関

駅名	バスの名称	行き先	下車場所	所要時間
新町駅	永井バス	玉村町役場・前橋公園	県立女子大前	約10分
高崎駅	群馬中央バス	県立女子大学	県立女子大学	約35分
前橋駅	永井バス	玉村町役場・新町駅	玉村町役場	約35分
伊勢崎駅	群馬中央バス	県立女子大学	県立女子大学	約25分

※バス停「県立女子大前」、「県立女子大学」は本学正門前にあります。
 ※バス停「玉村町役場」から、本学までは、徒歩で約10分です。
 ※バス時刻表は、運行会社、本学ホームページなどでご確認ください。
 (土日祝日などで、時間変更や運休の場合があります。)

群馬県立女子大学大学院

〒370-1193

群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1

電 話 0270-65-8511

電話受付時間：8時30分～17時15分

※土日、祝日、年末年始を除く

F A X 0270-65-9538

<https://www.gpwu.ac.jp/>

E-mail: kenjo@mail.gpwu.ac.jp